

討議資料

“人口減少の克服”をめざして

未来への道標

みんなの一步で 秋田が動く！

STEP 3

佐竹のりひさ 政策集

2017年・平成29年3月

目次

“人口減少の克服”をめざして

◆ はじめに	1
◆ 現状認識と基本理念	2
◆ 5つの政策の推進に向けて	4
◆ あきたづくりの「プロジェクト5」	
I ストップ・ザ・人口減少 ～若者や女性の秋田定着・回帰をめざして～	
1 「秋田定着・秋田回帰」の推進	6
2 全国トップレベルの結婚・出産・子育てサポート	10
3 安全・安心で豊かに暮らす生活基盤とまちづくり	12
II 雇用を生み出す成長産業の振興 ～産業集積拠点化と日本一づくりを～	
4 成長産業の加速的発展による産業構造の転換	16
5 全国一の風力発電などエネルギー供給拠点の形成	19
6 複合型生産構造への転換による攻めの農林水産業の振興	21
III 未来への交流創出と交通基盤整備	
～インバウンドの増大と若者が振り向くふるさとづくり～	
7 秋田の魅力を生かした観光と交通の充実	26
8 文化の振興とスポーツ王国の実現	30
9 交流を促す交通基盤の整備	33
IV 健康寿命日本一への挑戦 ～心と体の健康づくり県民運動大展開～	
10 元気な長寿社会を実現する健康・医療の充実	35
11 誰もが住み慣れた地域で暮らせる福祉の充実	37
V 世界に貢献する人材の育成 ～人口減少時代、未来を担う人材こそ最優先～	
12 未来を切り開く児童・生徒の育成	39
13 郷土秋田を支えグローバル社会で活躍できる人材の育成	41

はじめに

私は知事就任以来、時代の潮流や刻一刻と変化する社会経済情勢を見極めながら、高速道路のミッシングリンクの解消や、秋田港における国際コンテナターミナルの整備、中通一丁目市街地再開発など、長年の懸案にスピード感を持って取り組んでまいりました。

また、産業政策や少子化対策などの基本的課題については、輸送機等の成長分野の産業育成や新エネルギーの導入拡大、文化やスポーツを含めた新たな視点での観光振興、トップセールスによる東アジアとの連携促進、全国トップレベルの子育て環境づくりなど、おおよその道筋をつけることができ、具体的な成果が上がってきています。

例えば、産業分野では、自動車や航空機、情報関連産業において中核となりうる企業の誘致に成功し、今後、県内企業との連携によるサプライチェーンの形成や企業のレベルアップにつながることを期待されるほか、風力発電などの建設が順調に進み、県内外からの投資が増大するとともに、メンテナンス等の関連産業も進展してきています。

農業分野では、園芸メガ団地の整備による戦略作目の生産拡大や、新たな県産牛ブランド「秋田牛」の国内外への販路開拓など、「米依存からの脱却」に向けた取組が進んでいるほか、特に遅れている物流対策については、大手企業と連携し、生鮮食品のマーケット拡大に向けた新たな物流システムを構築したところであります。

観光分野では、大型観光キャンペーンや国民文化祭、日本スポーツマスターズなどを契機とした交流人口の拡大が図られてきたほか、秋田犬や伝統文化遺産、秋田の食などの多様な資源を生かした国内外からの観光誘客にも力を入れています。

加えて、多くの市町村で地方版総合戦略の中心事業として位置付けた「県市町村未来づくり協働プログラム」の導入や全国トップレベルの子育て環境づくりの更なる充実、小・中学校の全学年における30人程度学級の実現など、国の動きに先んじた本県独自の取組を推進しています。

一方で、少子化に歯止めをかけることや付加価値生産性の高い産業構造への転換、インバウンド需要の本格的な取り込みなどについては、道半ばであり、更なる取組が必要です。

地域に根付いた多様な文化や、豊かな自然に育まれた農村など、秋田の原点を維持しながらも、ここに住む人々が、人間としての素養を磨き、豊かな心でお互いを慈しみ合いながら、新たな産業や文化にチャレンジする姿が、私の思い描く秋田の未来、「高質な田舎」であり、その実現こそが地方創生の着地点であると考えます。

「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」や「あきた未来総合戦略」に掲げる施策を着実に推進し、本県最大の課題である「若者の県内定着」を図り、「人口減少に歯止め」をかけ、豊かな秋田の未来創造に向かって歩みを進めていくことが、私に課せられた責務であると考え、引き続き、全力で取り組んでまいります。

現状認識と基本理念

『秋田回帰と交流』

秋田で育った子どもたちは、高校卒業後、大学進学や就職のため、県外へ離れることが多く、これが人口減少の最大の要因になっており、秋田の大きな損失でもあります。

たくましく優秀に育った子どもたちに、地域に元気と賑わいをもたらす“秋田の創生”に向けて活躍してもらうためにも、生まれ育った秋田に戻ってこられる（秋田回帰）、さらには、秋田に魅力を感じて移住・定住してみたい、そうした環境づくりをしていかなければなりません。

また、人口減少県の本県においては、人やものの流れを生み出すことで、地域産業の振興が図られ、人々が暮らすまちに活力と賑わいが創出されます。多様な交通手段により観光やビジネスで秋田を訪れ、地域を巡り、食を楽しみ、宿でくつろぐなど、こうした交流は、地域に大きな経済効果をもたらします。

今後とも、国内外の多くの観光客やビジネス客に秋田へ訪れていただくためには、多様な方々を受け入れる環境整備とともに、県内を安全でスピーディーに巡るための基盤づくりが必要です。

『産業基盤』

現在、就業者を求める有効求人倍率は、1倍を超える高水準を長期間キープしておりますが、意に沿わない非正規雇用者も少なくない現状にあります。ここ数年、輸送機や新エネルギー、医療・福祉、ICT産業などの成長分野の企業が秋田に進出してきており、こうした動きを加速し、安定した雇用の場の確保を図っていくことによって、一旦ふるさとを離れた皆さんが、また戻ってくる「秋田回帰」の流れが生まれるものと考えます。

また、広大な耕地に清らかな水が豊富で、おいしさが評判の米づくりが盛んでありますが、日本一の枝豆や秋田スギに加え、秋田牛やダリアなど秋田産の新しい顔が次々と誕生してきており、各分野で動き出したこの流れをさらに加速していく必要があります。

『交流基盤（空港、フェリー、鉄道、高速道路）』

交通基盤としては、2つの空港をはじめ、鉄道、高速道路、フェリーなどがあります。秋田空港は国内路線の便数が多く、台湾からのチャーター便も増加しています。港湾は、フェリーにより国内各地と結ばれているほか、最近ではクルーズ船の寄港も増えています。

その港湾の物流機能の発揮はもとより、観光・交流を推進していく上でも、港湾とのアクセス強化を図っていくことが重要です。

鉄道は、男鹿線が100周年、五能線が80周年、田沢湖線が全線開通50周年を迎え、秋田新幹線こまちもモデルチェンジしながら、快適な列車の旅を楽しませてくれます。さらに、首都圏との時間短縮と大量輸送を図るため、「奥羽・羽越新幹線」の実現に向けた取組を進めていく必要があります。

高速道路については、日本海沿岸東北自動車道や東北中央自動車道の整備が進められており、人の交流や物流などで大きな効果が現れておりますが、県境付近などの一部区間の整備や暫定2車線区間の4車線化を加速しなければなりません。

『地域が支える福祉・医療』

高齢化が進行している一部集落などでは、長い時間の中で、共に支え合う態勢が整っている地域があり、日々必要とする買い物や病院等への移動、雪国ならではの除排雪作業等を支援するなど、地域で暮らす人々の互助・共助の仕組みが機能しています。

しかしながら、そうしたシステムにも高齢者が多い地域では限界があり、将来や健康への不安、社会からの疎外感を抱く人も少なくありません。

人々が元気で生き生きと暮らしていく地域社会の形成を目指して、地域包括ケアシステムの構築等の福祉・医療対策や地域で見守る自殺予防対策など、県民の暮らしといのちを守るための基本的な施策を、引き続きしっかりと進めていかなければなりません。

『全国トップレベルの学力』

秋田の子どもたちの学力は全国一です。毎年の全国学力テストで小学・中学ともにトップレベルをキープしています。このことは、子どもたちの学ぶ意欲や努力とともに、教職員をはじめとする教育関係者の秋田メソッド（＝秋田の探究型授業）の構築と実行によるものです。

文部科学省の調査によると、学校への不登校や暴力行為などの発生件数が全国でも低位にあり、家庭や学校、地域など、子どもたちを取り巻く環境の良さが結果に表れているものと考えます。

子どもたちが、多くのことを学び、仲間と共に考え、様々なことを体験できる環境づくりが大切であり、全国トップレベルの学力を持つ子どもたちが、世界を視野に入れて大きく羽ばたく可能性を、さらに広げられるよう取組を進めていく必要があります。

5つの政策の推進に向けて

人口減少を克服し 若者が地域に定着する
“元気創造あきた”を目指します

～本県喫緊の課題である「若者の県内定着」を図り
「人口減少の克服」に向けた政策に集中的に取り組めます～

[人口減少率 マイナス1.32%に歯止めをかけます！]
[社会減を半減します！]

全国的に少子高齢化が進行する中ではありますが、特に本県は、自然減とともに社会減も大きく、進学や就職などで高卒者や若い女性の多くが県外に転出しており、この流れをくい止め、県内に定着・回帰（秋田回帰）することを進めなければなりません。

また、全国でも高齢化率や死亡率がトップ、婚姻率・出生率・自殺率がワーストといった現状を打開する必要があります。

若者が地域に定着し、生き生きと活躍し、生涯の伴侶を見つけ、家族や仲間、地域の人々と共に豊かに暮らすことができる社会を創出しなければなりません。

《人口減少に歯止め》

こうした思いで、まずは、「人口減少」に歯止めをかけるために、結婚・出産・子育て支援はもとより、若者や女性が活躍できる環境づくりを進めるとともに、秋田への移住・定住を促進します。

《人口減少克服に向けての環境づくり》

人口減少の克服に向け、仕事・職場づくりをはじめ、生活・交流・交通基盤づくりなどの環境整備を進めます。

特に、雇用を生み出す成長産業の振興や、交流人口の増加を図る交通基盤の整備、元気で長生きする健康長寿の推進、そして、郷土秋田を支える人材の育成を主要テーマとして、総力を挙げて取り組みます。

《 5つの政策 》

- | | | |
|-----|-----------------|----------------------------|
| I | ストップ・ザ・人口減少 | ～若者や女性の秋田定着・回帰をめざして～ |
| II | 雇用を生み出す成長産業の振興 | ～産業集積拠点化と日本一づくりを～ |
| III | 未来への交流創出と交通基盤整備 | ～インバウンドの増大と若者が振り向くふるさとづくり～ |
| IV | 健康寿命日本一への挑戦 | ～心と体の健康づくり県民運動大展開～ |
| V | 世界に貢献する人材の育成 | ～人口減少時代、未来を担う人材こそ最優先～ |

《 県民・市町村・団体等との協働 》

こうした取組を大胆かつ積極的に進めていくためには、県と国・市町村との連携はもとより、県民の皆様をはじめ、関係機関・団体等との協働が必要です。

《 元気創造あきた 》

「子育て支援日本一の秋田県」、「成長産業で発展する秋田県」、「人々が行き交う食の宝庫の秋田県」、「健康寿命日本一の秋田県」、「学力日本一、人材豊富な秋田県」。

こうした“元気創造あきた”を目指し、若者の定着に向けたオール秋田での取組を進め、人口減少の克服を図ります。

あきたづくりの「プロジェクト5」

I ストップ・ザ・人口減少 ～若者や女性の秋田定着・回帰をめざして～

1 「秋田定着・秋田回帰」の推進

少子高齢化が進行する中で、高卒者や県内大学生の県内定着をはじめ、県外大学生の県内就職やAターン就職等の促進のほか、県外からの移住・定住を拡大する「秋田定着・秋田回帰」を推進することなどにより、本県の「人口減少ストップ」を目指します。

【これまでの主な実績】

- ・新規高卒者の県内就職率の向上 H24：63.4% → H27：65.9%
- ・県内大学生等の県内就職内定率の向上 H25：96.7% → H27：99.4%
- ・Aターン希望登録者数の増加 H25：1,985人 → H27：2,522人
- ・移住者が大幅に増加 H25：9世帯33人 → H27：58世帯123人

4年間で実行する政策

《サポート体制・組織体制の強化》

○少子化対策や移住・定住を推進する新たな所管部「あきた未来創造部」を設置します！

- ・「あきた未来総合戦略」に掲げた少子化対策や移住・定住対策を強力に推進するため、子育てや移住・定住、若者の定着を一体的に所管し、人口減少克服に集中的に取り組む都道府県初の新たな部（あきた未来創造部）を設置します。

《若者や女性が定着できる職場づくり》

○成長産業の振興により魅力あふれる職場づくりを進めます！

- ・「航空機、自動車、医療・福祉、ICT、新エネルギー」など成長産業の振興を図るとともに、次世代技術等の導入や、製品開発、生産効率の向上を通して、日本のものづくりに貢献する職場で若者の定着を進めます。

○女性が生き生きと働く職場づくりを促進します！

- ・ICTやデザイン、ニュービジネスをはじめとするソフト産業など、女性が柔軟で多様な働き方ができる雇用の創出や職場づくりを促進します。
- ・女性が生き生きと活躍できる企業の誘致などに取り組むとともに、女性の採用や育成に積極的に取り組む企業を支援します。

○「福祉・医療」の人材を確保します！

- ・福祉・医療関係の職場における人材不足の解消に向け、介護士、看護師等の確保を図ります。
- ・結婚・妊娠で離職した介護士・看護師等の再就職をサポートします。

○「新規就農者」や「林業人材」の確保・育成を図ります！

- ・多様なルートからの新規就農者を確保するため、支援対象を若者から中壮年層まで

拡大するとともに、移住就農を含めて幅広い分野からの就農を促進します。

- ・ 林業大学の充実強化を図り、県内外からの人材確保を進めます。

○「建設人材」の確保・育成を図ります！

- ・ 社会資本の整備や災害対応などを担い、県民生活の安全・安心を支える建設産業の持続的発展を図るため、新たに「建設産業担い手確保育成センター(仮称)」を設置し、ワンストップでの相談体制を整えます。
- ・ 高校生・大学生等のインターンシップの促進や訓練機関等による人材の育成、企業とのマッチングなどに取り組み、産学官が連携して、建設産業における担い手の確保・育成を推進します。

○待遇改善・福利厚生が充実した職場づくりを促進します！

- ・ 非正規から正社員への転換や賃金等の待遇改善、休暇の取得促進、健康管理等の福利厚生の充実等により、働く皆さんが仕事と生活を両立させながら、いきいきと働き続けることができる職場づくりを促進します。

《高卒者の県内定着》

○県内企業への就職を促進し県内定着を図ります！

- ・ 高校1年生時から、医療・福祉や建設、金融、サービス業など地元企業・事業所へのインターンシップを推進し、県内就職率の向上を図ります。

(新規高卒者の県内就職率 H27 : 65.9% → H32 : 74%)

○地域に求められる産業人材の育成により高卒者の県内定着を図ります！

- ・ 工業高校に「航空産業コース」を新設し、航空機関連企業の人材を専門高校の授業に活用する取組や、当該企業での長期インターンシップ体験活動を一層推進し、実践的専門教育の充実を図るとともに、地元企業への就職を強力にバックアップします。
- ・ ICTに関して飛び抜けた才能を持つ児童生徒を発掘するため、情報関連企業のサポートも得ながら、この分野に強い興味を持ちICTに詳しい児童生徒を集め、合宿方式による県独自の「ICTオリンピック」を開催します。

○就職数年目での「離職者」の発生を抑制し県内定着を図ります！

- ・ 高校生のキャリア教育、インターンシップの機会を増やすとともに、地元企業から講師を派遣するなどのコラボ教育に取り組み、就職数年目の離職を抑制し県内定着を図ります。
- ・ 職場定着を推進するため、就職支援員やキャリアアドバイザーに加え、新たに職場定着支援員を配置します。

(就職1年後離職率 H26年3月卒 : 17.8% → H32年3月卒 : 10.0%まで縮減)

《大卒者の秋田定着・秋田回帰》

○学生への奨学金制度や返還助成制度による「秋田定着・秋田回帰」を進めます！

- ・ 全国最大規模の「奨学金返還助成制度」などによる大卒者等の県内定着・回帰を促進します。
- ・ 地方大学の入学定員の拡大を国に働きかけます。
- ・ 専修学校専門課程(専門学校)に進学する際の経済的不安を解消するため、専門学校への進学者を対象とした「月額奨学金制度」を創設します。

○「COC+構想」の促進など、県内の大学生の県内定着を進めます！

- ・ 県内3大学等の連携による学生の県内就職率の10%向上を図る「COC+構想」の取組を後押しするなど、県内の大学生の県内定着を図ります。
- ・ グローバル社会で活躍する人材や、成長産業等を支える技術系人材、地域医療等を担う人材などを育成する大学の取組を支援します。
- ・ 海外からの留学生に対して、地元企業とのマッチングやインターンシップを促進します。

(県内就職率 H27年3月：30% → H32年3月：40%)

○県出身の県外大学生等への県内就職「秋田回帰」を進めます！

- ・ 県外へ転出予定の高校生に対し、秋田の暮らしや魅力ある企業に関する定期的な情報を発信する「県就職情報提供登録制度(仮称)」への加入を促進します。
- ・ 県外へ転出している学生や就職した若者のふるさとの家(実家)への定期的な就職情報を提供します。
- ・ ふるさとの企業とのマッチングやインターンシップの機会を大幅に増やします。
- ・ 首都圏や仙台圏の大学等との「Aターン協定締結」により、学生向けの就職セミナーや企業説明会等を開催します。
- ・ 首都圏で新卒大学生向けの相談窓口を開設し、メンター(指導者、相談者)による個々の県内就職を支援します。
- ・ 就労実態が良好な「優良企業」からのAターン求人を首都圏の民間転職サイトに掲載するなど、Aターン希望者の掘り起こしと県内企業とのマッチングを促進します。

《移住・定住の推進》

○「あきたに住みたい・暮らしたい」をワンストップで応援します！

- ・ 増加傾向にある移住者をさらに増やしていくため、首都圏等からのAターンや移住・定住を一体的かつ効率的に推進し、仕事や生活相談などにワンストップで対応する新たな支援組織「秋田県移住定住推進機構(仮称)」を設立し、秋田市と東京において窓口サポートを行います。
- ・ 秋田の暮らし、食、自然などを幅広く紹介し、秋田のファンを増やすとともに、多様なメディアを活用した移住情報の発信や相談窓口の設置等により、「秋田暮らし」の魅力を伝えます。
- ・ 各地域の県人会組織を通じて、県出身者や友人、知人等へ「秋田への移住・定住」を広くPRするほか、マスコミや地元出身芸能人の協力による移住・定住促進の動画等を発信します。
- ・ 特徴ある空き家の活用方法等の情報発信とともに、民間事業者との連携による利活用を支援します。

(移住者数 年間220人を目標)

○移住拡大と地域活性化に貢献する「ドチャベン」を応援します！

- ・ 移住者の視点で、新たに地域で起業化する土着ベンチャープログラム(ドチャベン)等の展開を応援します。

○県と市町村との連携・協働プロジェクトによる「移住・定住」を進めます！

- ・ 人口減少の克服に向け、移住・定住のPR活動や、移住後のサポート体制の充実、移住者による全県的なネットワークによる情報交換などを行う、新たな県と市町村

との連携・協働プロジェクト(人口減少対策プロ)に取り組みます。

○県外からの「秋田の教育体験」(短期・長期の教育留学)を推進します！

- ・全国トップレベルの良好な教育・子育て環境など本県の強みをPRして移住促進を図るとともに、秋田での授業や給食、農家民宿などの「秋田の教育体験」の取組を進めます。

○CCRC等による移住・定住のための新たな居住環境づくりを進めます！

- ・中高年齢者が希望に応じて移住・住み替えを行い、多世代と協働して健康でアクティブな生活を実現する「CCRC」や「コレクティブハウス」などによる新しいまちづくりを進めます。

※CCRC：必要な時に医療と介護のケアを受けて住み続けられる場所

※コレクティブハウス：複数家族の個々の住空間のほかに、共同で家事や育児ができる共用空間のある集合住宅

○「秋田版生涯活躍のまち」づくりを進めます！

- ・地域における健康長寿や生涯活躍の実現を目指すほか、首都圏のアクティブシニア等の移住、CCRCの実現、地域住民との互助・共助による協働などの取組を推進するための「秋田版生涯活躍のまち」づくりを進めます。

2 全国トップレベルの結婚・出産・子育てサポート

福祉医療費・保育料助成制度の充実や多子世帯向け奨学金制度の創設など、子育て支援策を積極的に広報し、制度の利用を促進するとともに、子育てに優しい環境づくりを推進します。

仕事と子育てを両立し、女性が活躍しやすい職場環境づくりや雇用の創出を図ります。

【これまでの主な実績】

- ・あきた結婚支援センターの成婚報告者数(累積) H24: 210人 → H27: 780人
- ・合計特殊出生率や第3子以降の出生割合が増加傾向
- ・子育て世帯の負担軽減を図る全国トップレベルの子育て支援策の拡充
- ・男女イキイキ職場宣言事業所数 H24: 185事業所 → H27: 294事業所

4年間で実行する政策

《脱少子化県民運動の展開》

○官民一体となった「脱・少子化県民運動」を展開します！

- ・福祉・医療・生活関係団体、農林水産業団体、商工金融経済団体、建設関係団体、教育関係機関など、県内各機関・団体等の協力・連携により、「脱・少子化・みんな」で支える子育てサポート県民運動を展開します。
- ・従業員の仕事と子育ての両立に取り組む企業を増やし、子育てしやすい職場づくりを推進します。

《結婚・出産・子育て支援》

○結婚へのサポートの充実・強化を図ります！

- ・あきた結婚支援センターのマッチング機能の強化とともに会員登録を促進し、センターのサポートによる成婚者数の拡大を図ります。
(成婚者数 H27年まで780人 → H32年まで1,735人)

○妊娠・出産へのサポートの充実・強化を図ります！

- ・妊娠期から子育て期までを切れ目なく支援する「子育て世代包括支援センター」の全市町村での設置を促進します。
- ・周産期医療の充実や不妊治療などへの支援を行います。

○子育て世帯の「医療・保育・住宅・教育」をサポートします！

- ・中学生までの福祉医療費助成や、第3子以降が生まれた場合の第2子、第3子以降の子どもにかかる保育料の全額助成などの全国トップレベルの支援を行うとともに、更なる充実強化を図ります。
- ・一般住宅のリフォーム支援はもとより、子育て世帯のライフステージに応じ、子どもの暮らしやすい居住環境を整備するため、「子育て世帯」が行う住宅リフォームや「空き家」のリフォームに対して支援します。
- ・大学等への進学を後押しする多子世帯向けの奨学金の貸与制度を推進します。

○待機児童の解消や学習機会の場づくりを進めます！

- ・全市町村で待機児童の解消を図ります。

- ・保育サービスを担う人材の待遇改善など、安心して働き続けられる体制づくりを支援します。
- ・県内で保育業務に従事しようとする学生を対象とした修学資金の貸与制度を創設します。
- ・家庭の経済状況等にかかわらず、地域で学校以外の学習機会の場を提供する仕組みづくりを推進します。

《女性の活躍推進》

○働く女性の職場環境づくりを推進します！

- ・働く女性の活躍を推進するため、県内企業の一般事業主行動計画の策定支援や策定後のフォローアップのほか、模範企業の表彰や企業による「えるぼし」認定等の取得を促進します。

※えるぼし認定：女性の活躍推進に関する取組の状況等が優良な企業を厚生労働大臣が認定

- ・「あきた女性の活躍推進会議」において、女性活躍推進の機運を醸成しながら、女性のスキルアップや経営者の意識改革を図り、女性の採用や職域の拡大、管理職登用を促進するほか、イクボス宣言企業を拡大するなど、女性とその個性と能力を十分に発揮できる職場環境の整備を加速します。

※イクボス：部下の仕事と生活との両立を支援するとともに、自らも仕事と私生活を楽しむことができる経営者や上司

- ・女性が生き生きと活躍できる企業の誘致などに取り組むとともに、女性の採用や育成に積極的に取り組む企業を支援します。
- ・女性の活躍が期待される建設業や林業などの職場環境を整備するため、育児や介護をしながら働き続けられる制度に取り組む企業を支援します。

(男女イキイキ職場宣言事業所数 H27：294事業所 → H32までに550事業所)

(従業員数300人以下の企業の一般事業主行動計画策定数 H32までに250事業所)

○仕事と子育てを両立できる環境づくりを推進します！

- ・事業所内保育や病児保育、一時預かり保育など、働く女性が安心とゆとりを持って子育てができる環境づくりを支援します。

○快適な職場環境づくりを促進します！

- ・キッズルーム（託児所）の設置やトイレの改善など、女性が働きやすい企業の取組を支援します。

○ワークライフバランス等により女性の活躍を推進します！

- ・日本女性会議開催後の活動継続とともに、すべての女性が、結婚、育児、介護等そのライフステージに応じ、仕事と生活を調和させ、生き生きとした暮らしが実現できるよう「ワークライフバランス」等の取組を推進します。
- ・地域のあらゆる分野における女性の参加と積極的な活動を促進するため、県内3か所にある「男女共同参画センター」と男女共同参画を進める地域リーダーの「あきたF・F推進員」が、リーダーやロールモデルとなる人材の育成、新たな担い手の掘り起こしを行うほか、ネットワークの拡充等に取り組めます。

3 安全・安心で豊かに暮らす生活基盤とまちづくり

人口が減少する中、中心市街地における交通の利便性向上を図るとともに、地域社会の自立・活性化に向け、若者を中心とした元気なまちづくりを促進します。

本県が有する豊かな自然を守り、県民が安心して暮らせる環境保全に取り組むとともに、災害による被害の未然防止と地域防災力の向上、安全・安心な居住環境、過疎地域の交通弱者等への対応、犯罪・交通事故の少ない社会環境の創出等に取り組みます。

【これまでの主な実績】

- ・全市町村が県との協働による「未来づくり協働プログラム」を策定
- ・雪処理の共助組織 H27年度末までに24団体が設立
- ・「元気ムラ」登録地域の増加 H24：52地区 → H27：72地区
- ・犬・猫の殺処分の減少 H24：1,337頭 → H27：832頭
- ・土砂災害防止法に基づく警戒区域 H26～27年度 1,244か所指定
(指定率 H25末：19.8% → H27末：36.0%)

4年間で実行する政策

《賑わいのあるまちづくり》

○中心市街地のコンパクト化と域内交通のあり方を検討します！

- ・市街地の拡散を防止し持続可能な都市経営を確保するため、人口や土地利用形態等の基礎的な調査・分析を実施し、人口減少に対応したまちづくりを進めるとともに、市町村における立地適正化計画策定の取組を支援し、都市のコンパクト化を推進します。
- ・秋田市中心市街地における拠点開発や交通環境を取り巻く状況の変化を踏まえ、秋田市と連携を図りながら調査や検討を行うなど、今後の中心市街地における交通のあり方について研究を進めます。

○秋田版小さな拠点づくりを推進します！

- ・地域のコミュニティを維持していくことができるよう、移住者を含めた様々なネットワークを構築し、地域住民が運営する「お互いさまスーパー」等をベースに、地域の实情に応じた買い物支援や生活交通、見守り等を一体的に提供する安全・安心の拠点を整備します。
- ・地域社会の持続的な発展を促進する「地域の元気ムラ活動」や、市町村の地域コミュニティ活動を促進します。

○CCRC等による移住・定住のための新たな居住環境づくりを進めます！

- ・中高年齢者が希望に応じて移住・住み替えを行い、多世代と協働して健康でアクティブな生活を実現する「CCRC」や「コレクティブハウス」などによる新しいまちづくりを進めます。

○若者の活躍を推進します！

- ・秋田の未来を切り開く青少年の地域貢献活動や若者団体による地域活性化に向けた取組を促進するとともに、こうした若者のネットワークの拡大を図ります。
- ・地域課題を考える「演劇団体」や地域を盛り上げる「演奏団体」等の地域づくり活動

を支援します。

- ・ 全ての子ども・若者が希望を持って社会生活を送ることができるよう、「子ども・若者の自立」に向けて、支援体制の充実や就業支援等の取組を進めます。
- ・ 若い世代の「行動人」等による地域づくりへの参画を推進します。
(地域貢献活動を行う若者団体数 H27 : 21団体 → H32までに33団体)
(若者の自立支援を通じた進路決定者数 H27 : 128人 → H32までに810人)

○全国規模の一大イベントで人の流れを創出します！

- ・ 全国の若者などが集う「モーターカードリフト大会」を開催し、地域に賑わいをもたらします。
- ・ ねんりんピックや500歳野球、モーグルワールドカップ、さらには、あきた音楽大使の高橋優氏の野外フェスなど、県内外から大きな人の流れを創る全国規模の一大イベントへのサポートを行います。

○特徴ある地域づくりを応援します！

- ・ 人口減少下での住民サービスの維持・向上に向けた「県と市町村の機能合体」や「市町村同士の広域連携」等の一層の推進を図ります。
- ・ NPO中間支援センターとの情報共有を一層密にしながら、同センターを通じて人材育成やNPO間のネットワークの構築を促進します。
- ・ 「守りたい秋田の里地里山50」の認定とともに、交流イベントなどを支援します。

《生活環境の整備》

○「動物にやさしい秋田（動物愛護センターの整備）」の取組を推進します！

- ・ 犬や猫などの殺処分ゼロに取り組むとともに、CLT（板の層を各層で互いに直交するように積層接着した厚型パネル）活用等による「秋田県動物愛護センター（仮称）」を新たに整備します。
- ・ 動物愛護思想の普及啓発や動物愛護に取り組むボランティアの育成、秋田犬等動物とのふれあいなどにより、人と動物が共生する社会に向けた県民運動を展開します。
- ・ 秋田犬や猫の飼育・展示等を行う「秋田県動物愛護センター（仮称）」を拠点として、クマの命を救った阿仁熊牧場や希少動物の命をつなぐ男鹿水族館、動物と直接ふれあうことができる大森山動物園等とともに、「動物にやさしい秋田」を発信します。
- ・ 「秋田県動物愛護センター（仮称）」を会場に、全国の愛好者や愛護団体などが、自慢の犬や猫を持ち寄り、コンテストや意見交換、飼育研修などを行う「全国犬猫サミット（仮称）」を開催します。
(犬・猫の年間処分頭数 H27 : 832頭 → H32 : 0頭)

○県民総参加による環境保全に取り組みます！

- ・ 「第2次秋田県地球温暖化対策推進計画」に基づき、省エネルギー活動の促進やCO₂排出量の一層の削減に取り組むなど、「ストップ・ザ・温暖化あきた」を県民運動として強力に展開します。
- ・ 県環境保全センターの新たな処分場の整備に着手し、県内中小企業が排出する産業廃棄物の適正処理を進めます。
- ・ 能代産業廃棄物処理センターにおいて新たに「促進酸化施設」を稼働させ、環境基準対策の強化を図り、汚染水の確実な処理に取り組むとともに、No. 2 処分場の支障物の撤去を着実に進めます。
- ・ 八郎湖の水質保全に向け、これまでの発生源対策と湖内浄化対策、アオコ対策の充

実強化を図るとともに、国や市町村、住民と連携して、新たな水質改善の取組を進めます。

○県土の保全と災害に強い地域づくりを進めます！

- ・大規模災害時の救援活動を支える上で重要な役割を担う緊急輸送道路等について、道路防災機能の強化や橋梁耐震補強などの取組を重点的に進めるとともに、リダンダンシー（代替）機能を確保する道路ネットワークの整備を推進します。
- ・土砂災害から人命や財産を守るため、要配慮者利用施設のある箇所などから重点的にハード対策を進めるとともに、ソフト対策として土砂災害警戒区域等の指定を推進し、市町村における警戒避難体制の整備を促進します。
- ・多発する局地的豪雨等による洪水被害から生命・財産を守るため、三種川や齊内川をはじめとする河川改修等の治水対策を推進します。
- ・河川水位観測局の増設などにより洪水時等における河川情報提供体制の強化を図るとともに、想定最大規模の洪水による浸水想定区域の見直しを進め、市町村におけるハザードマップの更新、住民への周知等のソフト対策を促進します。
- ・治水対策と併せて、農業用水の慢性的な不足、生活用水の枯渇等に対応するため、成瀬ダムや鳥海ダムの早期完成に向けた取組を推進します。
- ・ICTを駆使した3D津波避難利活用シミュレーションプログラムの実証と全県展開を図ります。
- ・ハザードマップ作成や避難計画の策定による火山防災対策を推進します。
- ・地域防災力の充実強化や国土強靱化を推進します。

（土砂災害警戒区域等の指定率 H27：36% → H31：100%）

○安全・安心な暮らしを守る居住環境づくりを進めます！

- ・冬季も安全・安心に暮らすことができるよう、状況に応じた除雪体制の強化など、総合的な雪対策を推進します。
- ・障害者・要介護者向け駐車区画利用制度の普及を図ります。
- ・地域コミュニティの拠点や防災拠点、人が多く集まる場所におけるWi-Fi等の通信インフラ整備等による情報提供機能を強化します。
- ・高齢者の特殊詐欺被害防止に向けた啓発活動や相談体制の充実など、安全・安心な消費生活実現のための取組を推進します。
- ・良好な居住環境を確保する住宅の増改築・リフォーム等を支援するほか、住宅用火災警報器の設置等を促進します。

○地域公共交通の利用促進と交通弱者のための新たな移動サービス等を検討します！

- ・酒蔵など地域資源と路線バスを結び付けた取組や、第三セクター鉄道などの公共交通利用に対する住民の意識醸成など、地域公共交通の利用促進に向けた新たな取組を支援します。
- ・雪国・過疎地域等における高齢者や学童等の交通弱者のため、交通空白地域における自家用有償運送などの新たな移動サービスの普及や次世代交通に関して、幅広い視点から検討します。

○防犯や交通事故防止活動を推進します！

- ・「防犯カメラ」の有用性と県民のプライバシーの保護などに配慮した「防犯カメラの設置等に関するガイドライン」を策定し、その適正な運用を図ります。
- ・自主防犯活動団体の取組を含む総合的な防犯活動や犯罪被害者等に対する支援を行います。

- ・「第10次秋田県交通安全計画」に基づき、関係機関と連携を深めながら、交通事故防止対策の充実を図ります。
- ・県交通安全協会や県交通安全母の会、市町村の交通指導隊などと連携し、高齢者の事故防止の啓発に重点的に取り組みます。
(交通事故死者数 H28 : 54人 → H32 : 30人以下)

○有害鳥獣による被害防止を強化します！

- ・クマの目撃件数や人身事故数が大幅に増加したことを踏まえ、次期計画として策定を進めている「第二種特定鳥獣管理計画（第4次ツキノワグマ）」に基づき、クマの個体数推定方法の見直しや出没・被害情報の共有化を図るほか、被害防止体制の整備や県民への注意喚起、人身事故への対応の強化に取り組みます。
- ・クマを含めた有害鳥獣捕獲に従事する狩猟者を育成・確保するため、狩猟の魅力を伝えるフォーラムや経験が浅い免許取得者を対象とした講習会等を開催するほか、狩猟免許等の取得や猟銃の購入を支援します。
- ・クマの出没抑制と農作物の被害防止を図るため、里山の高齢な広葉樹林の更新や、間伐等の森林整備を促進するとともに、市町村等による果樹園等への電気柵の設置や、有害捕獲等に関する取組を支援します。
- ・増加が懸念されるニホンジカやイノシシについて、新たに策定する「第二種特定鳥獣管理計画」に基づいた被害防除を進めます。

Ⅱ 雇用を生み出す成長産業の振興 ～産業集積拠点化と日本一づくりを～

4 成長産業の加速的発展による産業構造の転換

成長産業への県内企業の参入促進や加工組立型産業の構造転換、豊かな地域資源を活用した商品やサービス、県外へ売り込む秋田ブランドの創出などにより企業の付加価値生産性を向上させるとともに、本県経済の発展や雇用の確保に重要な役割を担っている中小企業の振興により、重層的な産業構造を構築し地域の安定的な雇用を拡大します。

【これまでの主な実績】

- ・ 製造品出荷額等の増加 H24 : 11,236億円 → H26 : 12,149億円
- ・ 航空機産業の製造品出荷額の増加
H19 : 約870万円 → H26 : 10億円突破 → H27 : 16億9,920万円
- ・ 輸送機・ICT関連の新会社設立や本社機能移転が増加
(H26～27 : 施設・設備の拡充件数48件、新たな雇用の創出1,609人)
- ・ H26～27の事業承継完了件数 308件

4年間で実行する政策

《成長産業の振興》

- 「航空機、自動車、医療・福祉、ICT、新エネルギー」など成長産業の振興を図ります！
- ・ 産学官の連携による低コストで軽量かつ優れた強度を有する汎用性の高い次世代複合材の開発により、航空機、自動車、医療福祉機器等の主要部品の生産供給拠点の形成を図ります。
 - ・ 航空機産業の部品製造における一貫生産体制の構築に対して支援するなど、成長分野において、県内企業が連携したサプライチェーンの形成を促進します。
 - ・ 自動車関連企業の工場進出や増設が進んでいることを踏まえ、引き続き生産性向上や試作品開発、複数企業連携による製品化等を支援します。
 - ・ 雪国秋田の路面状況に対応した自動車の自動運転化技術の検証事業（モデル地区）を誘致します。
 - ・ 産学官連携により、精度の高いがん診断治療支援機器や医療従事者に優しい機器の開発を進め、医療費の縮減を図り、日本の医療に貢献する開発供給地を目指します。
 - ・ 情報関連産業における商品開発や人材育成、競争力強化に向けた認証取得などを支援します。
(航空機産業の製造品出荷額 H27 : 17億円 → H32 : 56億円)
(自動車産業の製造品出荷額 H27 : 991億円 → H32 : 1,060億円)
(医療用機械器具の製造品出荷額 H26 : 524億円 → H32 : 640億円)

○成長産業の企業誘致や集積拠点化を図ります！

- ・ 成長分野をターゲットとした企業誘致や産業集積を強化するとともに、県内への本社機能の移転を促進します。
- ・ AIとIoTとを融合した最新のものづくり技術の導入を進めるなど、秋田のものづくり産業の付加価値生産性を高めるため、産学官の連携による研究開発の推進やAI人材の育成、AI企業の誘致等を推進します。
- ・ オーダーメイド型の貸工場の建設や取得を行う市町村を支援し、県内への産業集積

を促進します。

- ・ICTやデザイン、文化芸術型産業などの立地を促進するとともに、中小企業の参入に対して支援します。

○ものづくり産業のイノベーションを促進します！

- ・産業技術センターにおける県内企業のイノベーションセンター機能を強化し、成長産業分野における製品開発や生産性向上を図るとともに、国の産業技術総合研究所などとの共同研究の推進や連携を強化します。

○首都圏大学研究機関等との連携強化と「研究室」の誘致を推進します！

- ・首都圏の大学等の研究室を誘致し、秋田をフィールドに県内大学や公設試験研究機関、県内企業とともに、高齢者の健康保持や航空機等に関する共同研究を進め、地域産業の振興や商品化につなげます。

○企業と学校のマッチングで求められる産業人材を育成します！

- ・工業高校に「航空産業コース」を新設し、航空機関連企業の人材を専門高校の授業に活用する取組や、当該企業での長期インターンシップ体験活動を一層推進し、実践的専門教育の充実を図るとともに、地元企業への就職を強力にバックアップします。
- ・高校生のキャリア教育、インターンシップの機会を増やすとともに、地元企業から講師を派遣するなどのコラボ教育に取り組み、高卒者の地元定着を促進します。
- ・大学生等に対する奨学金返還助成制度を活用するなど、更なる成長が見込まれる輸送機や医療機器、ICT関連等の産業分野での高度な人材の育成を図ります。
- ・ICTに関して飛び抜けた才能を持つ児童生徒を発掘するため、情報関連企業のサポートも得ながら、この分野に強い興味を持ちICTに詳しい児童生徒を集め、合宿方式による県独自の「ICTオリンピック」を開催します。

○国際コンテナの利便性向上を通じた貿易の促進を図ります！

- ・貿易の促進を図るため、海外連絡デスクの積極的な活用を進めるとともに、企業の海外展開活動を支援するほか、秋田港の国際コンテナの利便性向上を推進します。

《中小企業の振興》

○中小企業に対する総合的な支援を行います！

- ・中小企業振興条例の基本理念を踏まえ、中小企業の経営基盤の強化や新たな市場開拓、新事業の創出、人材の確保・育成などに対し、きめ細かな支援を行います。

○ものづくり産業の新たな成長を促します！

- ・地域産業の活性化に向け、成長性の高い企業の新たなプロジェクトに対して、その成長戦略の策定から事業化までの一貫した支援を行い、地域経済を牽引する企業の育成を図ります。
- ・食品産業や商業・サービス業、伝統的工芸品等産業における競争力の強化と販路開拓の取組を支援します。
- ・大館曲げわっぱや、川連塗り、樺細工、秋田杉桶樽などの伝統的工芸品の海外展開を支援します。
- ・秋田ブランドの稲庭うどん、いぶりがっこ、きりたんぼ、比内地鶏、日本酒などの商品の底上げを図り、素材のフル活用による新たな商品づくりを推進します。

○企業の経営基盤の強化と事業承継をサポートします！

- ・ 県内企業の競争力の更なる強化に向け、課題解決力の向上、付加価値生産性の向上、地域資源を活用した新たな取組を支援するための相談機能・研究開発コーディネーター機能を充実します。
- ・ 県内企業の円滑な事業承継を促進するため、企業の個別事情に沿ったきめ細かな支援を行います。

5 全国一の風力発電などエネルギー供給拠点の形成

風力や地熱、水力、バイオマス等の再生可能エネルギー発電の更なる導入拡大を図るとともに、ベース電源である火力発電所の立地を推進し、我が国におけるエネルギーのベストミックスの実現に貢献するとともに、発電施設のメンテナンスや部品供給などの関連産業の集積を目指します。

【これまでの主な実績】

- ・風力発電設備導入量が拡大
H27年度の風力発電設備導入量 72,523kw（2年連続全国1位）
- ・秋田港・能代港と県北部一般海域で、洋上風力発電所の建設に向けた調査を開始
- ・東北地方の風車メンテナンスの拠点施設と研修機能施設の立地
- ・東北最大級の木質バイオマス発電所の操業を開始
- ・大型発電所としては全国で約20年ぶりとなる地熱発電所の建設に着手

4年間で実行する政策

《エネルギーの安定供給と関連産業の集積》

○全国トップの風力発電の更なる導入拡大を推進します！

- ・年間設備導入量全国トップの風力発電をはじめとする再生可能エネルギー発電の更なる導入拡大を図るため、陸上における風力発電の事業化を支援します。
- ・洋上風力発電の国内トップランナーを目指し、港湾区域内や一般海域における洋上風力発電の事業化を支援するとともに、関連する港湾機能の充実強化を図ります。
(風力発電設備導入量 H27：280,990kw → H32：620,000kw)

○風力発電メンテナンス等への県内企業の参入を促進します！

- ・発電施設のメンテナンスや部品供給など、関連産業における企業誘致や県内企業の参入を促進します。
- ・産学官連携により、国内初となる風力発電のメンテナンス技術者の育成システムを県内の実践フィールドで構築し、長期的に安定したメンテナンス人材の輩出を図ります。

○地熱やバイオマスなどの再生可能エネルギー発電を促進します！

- ・大型の地熱発電所として国内で約20年ぶりとなる山葵沢発電所や湯沢市小安地区などにおける新たな開発計画に対して支援します。
- ・バイオマス発電所の事業化を支援するとともに、発電施設への原料供給施設の整備等県産未利用材の安定的な供給体制の構築を図ります。
(地熱発電設備導入量 H27：88,300kw → H32：130,300kw)
(バイオマス発電設備導入量 H27：85,800kw → H32：110,800kw)

○水力発電の導入を推進します！

- ・県営の成瀬発電所など新たな発電所の建設とともに、早口発電所の大規模改修工事など既存発電所の能力増強を図ります。
- ・農業水利施設を活用した小水力発電については、有望地域における発電設備の事業化調査や施設整備を推進します。

○エネルギーの安定供給やベストミックス実現に貢献します！

- ・風力発電の導入拡大と併せ、気象条件の影響を受けずに常に安定した電力を供給可能な能代火力発電所3号機や秋田湾産業新拠点（A－B I Z）を活用する石炭火力発電所などのベース電源の立地を推進し、我が国におけるエネルギーのベストミックスの実現に貢献します。

《エネルギーの多様な利活用の促進》

○地域が連携したエネルギー供給・利用体制の構築を図ります！

- ・再生可能エネルギー発電事業者と市町村・団体等との協力・連携による停電時の電力供給や廃熱利用、観光利用などの地域振興に向けた取組を支援します。
- ・企業や住民、地域などエネルギー使用側の多様なニーズに対応できる「地域分散・地産地消型エネルギーシステム」の普及を図るとともに、関連製造業への県内企業の参入を促進します。
- ・産学官の連携により、次世代のエネルギーである水素エネルギーの利活用や、関連産業への県内企業の参入を視野に、様々な可能性について調査検討を進めます。

6 複合型生産構造への転換による攻めの農林水産業の振興

米の生産調整の配分廃止などを見据え、生産性の向上や競争力の強化により、国内外に打って出るトップブランド産地を形成するとともに、加工や流通・販売などの異業種と連携した6次産業化を促進するなど、複合型生産構造への転換を加速させることにより、県産農林水産物の付加価値向上と地域の雇用拡大を図ります。

また、川上から川下まで競争力の高い木材・木製品の安定供給体制の整備により、全国最大級の木材総合加工産地としての地位を確立します。

【これまでの主な実績】

- ・農業産出額 H27：1,612億円(前年対比9.4%増で全国一の伸び率)
- ・米以外の戦略作目の産出額合計 H27：758億円(過去15年間で最大)
- ・主な園芸品目の販売額の増加 H24：12,558百万円 → H27：15,260百万円
- ・販売額1億円以上を目指す園芸メガ団地 県内7地区で整備
- ・東京都中央卸売市場における7～10月の枝豆出荷量 2年連続日本一
- ・花き全体の販売額 過去最高の21億円を突破
- ・平成26年10月、県産牛の新ブランド「秋田牛」のデビュー
- ・平成27年度に県産米の新品種「秋のきらめき」「つぶぞろい」が本格デビュー
- ・国内大手の流通業者との協定締結 関西圏への翌日配達が可能に
- ・農地中間管理機構による農地集積・集約化 農地集積率が71.5%まで向上
- ・産地づくりと一体となった基盤整備が着実に推進 平均整備面積：488ha/年
- ・新規就農者数 平成25年度から3年連続で200人を突破
- ・北海道・東北で初の「秋田林業大学校」の開校 受講生1期生18名、2期生18名

4年間で実行する政策

《米依存からの脱却》

○園芸メガ団地等による園芸拠点の整備を促進します！

- ・複合型生産構造への転換を一層加速させるため、園芸メガ団地やネットワーク型団地など、大規模な園芸拠点の整備を全県域に拡大します。

(園芸拠点の整備数 H28：10地区 → H32：32地区)

○日本一の「枝豆」と次に続く「しいたけ」の生産振興を図ります！

- ・秋田野菜の顔として認知度が高まっている枝豆の更なるブランド力向上を図るため、生産拡大による東京都中央卸売市場における年間入荷量日本一と、新たなマーケットとして関西圏での7月から10月までの入荷量シェア30%以上を目指します。
- ・7月出荷の拡大による枝豆の長期安定出荷を実現することで、価格形成力の高い産地に育成し、販売単価のアップを図ります。
- ・高品質で市場評価が高く、生産意欲が向上している菌床しいたけを枝豆に続く最重点振興品目と位置付け、東京都中央卸売市場における「販売量」「販売単価」「販売額」の三冠王の実現に向け、規模拡大への支援のほか、販促活動を強化します。
- ・さらに続く、ネギ、アスパラガスなど、園芸作物の生産拡大を促進します。

(東京都中央卸売市場での本県しいたけのシェア H28：15% → H32：25%)

○秋田県オリジナル品種の果樹・花きの生産振興を図ります！

- ・りんごの「秋田紅あかり」、なしの「秋泉」、かづの「北限の桃」、「NAMAHA G Eダリア」や「秋田りんどう」など、市場評価の高い県オリジナル品種の産地拡大を図り、活気ある園芸産地を育成します。
- ・りんごの「ゆめあかり」を中心に、品質保持技術を活用して、夏にも出荷できるりんご産地を育成し、農家所得の向上を図ります。

○国内外に打って出る「秋田牛」等の畜産の生産拠点整備を進めます！

- ・秋田牛の生産拡大を図るため、繁殖基盤の強化や多頭肥育を展開する大規模肉用牛団地を全県域に広げるほか、養豚・採卵鶏の規模拡大に向けた取組を支援します。
- ・平成29年に宮城県で開催される全国和牛能力共進会（宮城全共）では、自慢の秋田牛を出陳して、優秀な成績を収め、全国トップランクを目指します。
（畜産の生産拠点数 H28：30経営体 → H32：48経営体）

○農産物の高付加価値化と流通販売対策を強化します！

- ・JA等による大規模な6次産業化のほか、異業種との連携強化により、優れた県産農産物の特色を引き出す6次産業化を推進します。
- ・大手物流企業との連携により、翌日配達エリアを関西や海外まで広げるとともに、その物流システムを活用し、新たな販路開拓を図ります。
- ・実需者ニーズに対応したオーダーメイド型の生産流通体制の整備を進めます。
- ・輸出日本一奪還を目指す「米」をはじめ、米の加工品や、「秋田紅あかり」「秋泉」等の県オリジナル果樹、「秋田牛」「比内地鶏」等について、ターゲットを定めた輸出を促進します。

○効率的な生産拠点・園芸メガ団地等の基盤となる「ほ場整備」を推進します！

- ・効率的な水田農業の基盤となるほ場整備を一層推進するとともに、園芸メガ団地等と連携しながら、戦略作物の高品質・高収量実現に向け、地下かんがいシステムやモミガラ補助暗渠等の整備を促進します。

《秋田米の戦略》

○平成30年以降を見据えた戦略的な「秋田米」の生産・販売を展開します！

- ・将来にわたって米産県としての確固たる地位を確立するため、マーケットインの視点を重視した「秋田米の生産・販売戦略（仮称）」を策定し、家庭向けに加えて、需要が拡大している業務用にも機動的に対応できる米産地を確立します。

○実需と結び付いた生産体制の強化に取り組みます！

- ・業務用需要に対応した契約栽培の拡大や、国内外から需要がある日本酒の供給拡大に向けた「秋田酒こまち」等の酒造好適米の増産体制の強化など、実需と結び付いた新たな米づくりをサポートします。
- ・低価格で取り引きされる業務用や輸出向けにも対応できるよう、直播や密播疎植栽培等の省力技術、多収品種の導入のほか、ICT技術を活用した管理技術の効率化により、生産費の低減を図ります。
- ・少量・多品種による実需販売や、農業法人等による低コスト生産に必要な農業機械の導入等に対して支援します。

○市場を制する極良食味米の「新品種デビュー」を目指します！

- ・平成30年までに秋田米のプライスリーダーとなる食味に優れた品種の開発に目途を付け、生産現場での実証に取り組み、平成32年までには極良食味米の新品種デビューを目指します。
- ・土づくりや栽培方法などにこだわった地域プレミアム米などの売れる商品づくりを進めます。

《多様な担い手育成》

○本県農業を担う「多様な担い手」の確保・育成を図ります！

- ・農地中間管理機構を活用した農地の集積・集約化を進めるとともに、販売額1千万円以上を目指す収益性の高い経営体の意欲的な取組を支援し、経営規模の拡大を図ります。
- ・直売や加工、農家レストランなど、女性ならではの感性を生かしたアグリビジネスを推進します。
- ・「産業用ロボット」の活用や「ICTを駆使した生産体制」の構築とともに、大規模団地や加工所等における労働力確保のための調整機能の充実を図ります。

○若年から中壮年層までの「新規就農者」の確保・育成を図ります！

- ・多様なルートからの新規就農者を確保するため、支援対象を若者から中壮年層まで拡大するとともに、移住就農を含めて幅広い分野からの就農を促進します。
- ・プロ農業者として自立できるよう、ビジネス経営塾に加え、県外法人や食品関連企業、海外への派遣など、研修体系の充実強化を図ります。
(新規就農者数 H27：209人 → H32：270人)

○あきたで活躍する女性の活動を支援します！

- ・地域資源を生かしたビジネスを展開する女性起業者の育成を図るとともに、食や農業、観光等を組み合わせたビジネスを通じて、女性が活躍できる環境づくりを推進します。

《農業・農村の活性化》

○地域資源を生かした中山間地域対策を展開します！

- ・条件不利地域でも、一定の所得を確保できるよう、農業者等が自ら取り組む地域資源を生かした「中山間元気プラン」の実践をソフト・ハード両面から支援します。
- ・条件が不利な農地を積極的に引き受け、営農を継続する集落型農業法人等の取組に対し、一定期間、賃借料に対して助成するなど、生産条件の格差解消に向けた支援措置を講じます。
- ・県内外の企業や大学等と協働で行う、次代に継承すべき里地里山の保全活動を支援します。

○農業団体の統合促進と商工団体との連携強化を図ります！

- ・現在の農業協同組合（15JA）、農業共済組合（2組合）、土地改良区（84改良区）について、それぞれの経営基盤の強化を図りながら、農業所得の向上に資する事業を積極的に展開できるよう、合併・統合に向けた主体的な取組を応援します。
- ・県産農畜産物を原料とした新たな加工品の開発・販売等の6次産業化の推進や、ICT技術の導入、ものづくりのノウハウの農業分野への導入・活用等を促すため、農業団体と商工団体との間で協定を締結し、連携を強化します。

《林業・木材産業の振興》

○「ウッドファーストあきた」の更なる推進を図ります！

- ・「ウッドファーストあきた」県民運動を展開するとともに、秋田スギの利用拡大や木材・木製品の更なる需要拡大を推進します。
- ・2020年東京五輪を契機として、CLT（板の層を各層で互いに直交するように積層接着した厚型パネル）や木鉄ハイブリッド部材（木材と鋼材を組み合わせた建材）など、新たな木質部材の開発・普及拡大を推進し、木材需要と雇用の拡大を図ります。
- ・県産未利用材の安定的な供給体制の構築によるバイオマス発電への利用を促進します。

（素材生産量 H27：1,335千m³ → H32：1,600千m³）

○間伐や路網整備等を推進します！

- ・森林組合等との連携を図り、計画的な間伐や路網整備を推進するとともに、高性能林業機械の導入促進や、皆伐再生林の取組を促進します。

○全国最大級の木材総合加工産地として体制強化を図ります！

- ・外国産材や国内他産地材との競争力強化のため、木材加工施設の整備・拡充により高付加価値製品の生産力を強化するとともに、生産者の加工技術力の向上を図り、実需者が求める品質・性能の確かな木製品を低コストで提供できる体制づくりを進めます。
- ・中小木材加工業者に対しては、販売ロット拡大のために必要な企業間連携を促進します。

○林業大学の充実強化による次代を担う「林業人材」を育成します！

- ・年間を通じて高性能機械の実践研修を実施できるよう、林業大学の充実強化を図り、県内外からの人材確保を進めるとともに、子どもの頃から林業に興味を持ち、将来の林業への就業につながるよう、森林学習館の機能強化を進めます。

（林業新規就業者数 H28：145人 → H32：265人）

《水産業の振興》

○秋田の海・川資源を生かした「水産業の振興」とビジネス展開を図ります！

- ・つくり育てる漁業を一層推進するため、サケやマダイ、キジハタ等の漁獲量の安定化を図るとともに、ハタハタをはじめ、天然イワガキ、アワビ、サクラマスなど、秋田をイメージできる魚種のブランド化を進めます。
- ・少量であっても種類が多いといった本県漁種の魅力を生かした加工等による付加価値を高め、漁家所得の向上を図ります。

○水産振興センターの栽培漁業施設の整備を推進します！

- ・水産振興センターの機能強化に向け、平成30年までの年次計画により、栽培漁業施設の整備を着実に進めるとともに、つくり育てる漁業の振興を図ります。

○「第39回全国豊かな海づくり大会」等の開催を契機に水産業の活力向上を図ります！

- ・平成31年に本県で開催される「第39回全国豊かな海づくり大会」を契機として、本県漁業の更なる振興に加え、魚食や漁村文化等の魅力を全国に発信します。

- ・平成29年に本県で開催される「全国内水面漁業振興大会」の開催を支援します。

○つりなどの遊漁環境の整備を図ります！

- ・撒き餌の解禁や内水面の稚魚放流など、つり人による遊漁環境の整備を支援します。

○漁業就業者の確保・育成を図ります！

- ・若年世代に漁業の魅力を伝えるとともに、就業希望者に対する技術研修の実施や、自立を志向する者に対する経営安定支援などに取り組みます。

Ⅲ 未来への交流創出と交通基盤整備

～インバウンドの増大と若者が振り向くふるさとづくり～

7 秋田の魅力を生かした観光と交通の充実

観光客やビジネス客の受入環境の整備や、秋田犬、伝統文化、秋田の食といった観光資源のフル活用、交流基盤となる航空機、鉄道、クルーズ船等の誘致・活用などにより、インバウンド(外国人観光客の誘致)を含めた観光誘客を推進し、交流人口の拡大を図ります。

【これまでの主な実績】

- ・外国人延べ宿泊者数の増加 H24：27,580人 → H27：59,800人
- ・平成26～27年度 県産食材マッチング商談会 商談成立243件
- ・県産品の輸出が順調に増加 輸出金額 H24：476百万円 → H27：544百万円
- ・平成27年度の日本酒の輸出量 前年度比8.5%増加 (H27年度輸出量 257kl)

4年間で実行する政策

《観光客等の受入環境整備》

○交流を呼び込む「宿泊施設」等の環境整備を進めます！

- ・旅行者の多様なニーズや旅行形態の変化などに対応し、金融機関等と連携しながら民間宿泊事業者の施設整備をサポートし、観光地の再生を図ります。
- ・公共施設、農家民宿等の宿泊施設において、Wi-Fi環境の整備やクレジットカード等による外貨決済を促進するなどの受入環境の整備を図り、県内宿泊者数の拡大を目指します。

(延べ宿泊者数 H27：3,457千人 → H32：4,600千人)

○魅力ある「宿泊施設」の建設投資を促進します！

- ・高級リゾート型ホテルや国内外の資本によるインバウンド対応のホテルなど、魅力ある宿泊施設等の建設投資を促進します。

○観光客・ビジネス客等の受入環境・二次アクセスの整備を進めます！

- ・観光タクシーサービスや乗り合いジャンボタクシー、シャトルバスといった二次アクセスの整備強化を図るとともに、県内市町村と連携して、観光地に散在している景観を損なうような廃屋等の撤去を進めます。
- ・観光地への分かりやすい案内を行うため、身近な観光地の名称を交差点名標識に表示するなど、案内標識の充実を図ります。

○東北周遊豪華列車による秋田の旅に誘います！

- ・JRの豪華クルーズトレイン“TRAIN SUITE 四季島”による東北周遊の旅とともに、県内各地の観光名所を巡り伝統文化にふれあう秋田の旅に誘います。

○ローカル交通を強化し、地域に賑わいをもたらします！

- ・秋田内陸縦貫鉄道や由利高原鉄道を地域オリジナルの観光資源として、地域住民や地元自治体、鉄道事業者などとともに、国内外の旅行企画のコンテンツとしてPR

し、増加している台湾など海外からの誘客による利用促進を図ります。

- ・複数の鉄道事業者との連携による周遊列車の旅の企画など新たなローカル交通の活用を促進します。

《観光資源のフル活用》

○秋田犬の里など、秋田ならではの観光資源・食の提供で誘客を図ります！

- ・人気の高い秋田犬をはじめ、源泉掛け流しの温泉や、四季折々の景色、竿燈などの祭り、さらには、大曲の花火、増田の内蔵、男鹿のナマハゲ、小坂のレールバイク、阿仁の銀山等産業遺産、地域の伝統文化と発酵食文化など、秋田ならではの素材を観光資源として磨き上げていきます。
- ・「秋田」への旅行動機となるコンテンツを充実するため、農家民泊による農作業体験や、美しい田園風景を楽しむサイクリング、地域の匠による伝統技術の体験、伝統行事や祭りなどの生活文化・雪国文化を通じた地元の方々とのふれあいなど、近未来の移住・定住も視野に入れた観光誘客を促進していきます。
- ・首都圏等における大型観光キャンペーンを引き続き展開するとともに、全国にネットワークを有する金融機関等との連携による県外からの誘客など、様々なチャネルを活用し、「秋田ファン」の一層の拡大に結び付けていきます。

○伝統文化遺産など秋田の魅力を世界に発信して観光に生かします！

- ・ユネスコの無形文化遺産の「山・鉾・屋台行事」をはじめ、全国トップの登録数を誇る国指定重要無形民俗文化財や、祭り・行事などを生かした観光振興に向け、見て、触れて、体験するなどの受入態勢の強化に取り組みます。
- ・日本遺産（ハタハタ文化、北前船、城塞）、世界遺産（縄文文化）の登録を促し、観光振興に生かします。

○豊かな自然公園等を生かした観光誘客を図ります！

- ・国の「国立公園満喫プロジェクト」に選定された十和田八幡平国立公園や県立自然公園について、ビジターセンター等の施設整備や外国人旅行者に対応した受入体制の強化を図ります。
- ・世界自然遺産である白神山地におけるエコツーリズムを推進するため、その魅力を分かりやすく伝える白神ガイドを育成するほか、環境負荷を抑えながら、自然環境を直接体験できる散策・登山ルートの新設・整備を進めます。

○賑わいをもたらす「連続テレビドラマ」を誘致します！

- ・国内外から注目され、大きな経済効果が期待できる「秋田を題材にした連続テレビドラマ」等の積極的な誘致活動を展開し、その実現を目指します。
- ・秋田に縁のある先覚や偉人等に光を当て、映画やドラマ、舞台芸術、さらには新たな観光誘客の素材として活用します。

《インバウンドの拡大》

○東アジアを主体としたインバウンドを拡大します！

- ・東北周遊ツアーの連携企画を進め、海外からのインバウンドを拡大します。
- ・仙台空港を入口としたインバウンドを秋田に誘致するほか、国内の主要空港からの2次誘客（セカンドデスティネーション）を展開し、多様なルートからの観光流動を促進します。
- ・教育・文化・スポーツなど、様々な分野での草の根交流による裾野の拡大を図りな

がら、観光大使・ブロガー等による秋田の紹介やドラマ誘致、海外で知名度の高い秋田犬とのふれあい、里山サイクリングなどの体験型プログラムの整備と動画での情報発信の強化等により、台湾やタイを中心に交流を促進します。

(外国人延べ宿泊者数 H27 : 59,800人 → H32 : 110,000人)

○インバウンドのための「外国語対応」の充実を図ります！

- ・観光拠点地域における標識の外国語標記や、外国語対応のワンストップサービス窓口の拡充を図ります。
- ・主要観光拠点で英会話が可能なスタッフの配置を促進します。

○クルーズ船や航空機チャーター便の誘致を進めます！

- ・環日本海クルーズ振興による地域活性化のため、官民一体となったクルーズ船の誘致活動を進めるとともに、寄港した際には、夜空を鮮やかに彩る花火や豊かなあきたの食でもてなします。
- ・インバウンド、アウトバウンド双方の需要を拡大し、台湾、中国等からのチャーター便を増やします。
- ・韓国との定期便運休期間中にチャーター便を運航するなど、韓国と秋田間の旅行客等の増加を図り、運航再開に向けた取組を強化します。

《秋田のうまいものの売り込み》

○「秋田のうまいもの・秋田ブランド」を広くPRし、国内外への販売を強化します！

- ・あきた美彩館なども含め、首都圏の百貨店や民間事業者と連携した魅力ある商品開発を促進するとともに、2020年東京五輪の開催に向けて、秋田の強みにこだわったお土産品の開発や販売を促進するとともに、宿泊施設やレストランのほか、選手の合宿舎等に対する食材の売り込みに取り組みます。
- ・地域特産品の名称を知的財産として保護する国の「地理的表示保護制度（GI）」を活用し、「いぶりがっこ」などの“秋田のうまいもの”の登録を推進するとともに、販売拡大に結び付けます。
- ・首都圏等県外及び海外において秋田産食材を生かした飲食店企業とタイアップした売り込み活動を促進します。

○秋田の地酒・日本酒の高品質化とプレミアム販売を促進します！

- ・日本酒の新たなニーズに対応し、特定名称酒などの高品質な日本酒の増産に対応するため、蔵元の製造現場における設備投資を支援します。
- ・本県が独自に開発した「AKITA雪国酵母」や酒米（「秋田酒こまち」や「ぎんさん」等）など、秋田オリジナルの素材を使った日本酒のラインナップを強化します。
- ・国内外の各種品評会での受賞酒を、秋田のプレミアム日本酒として販売促進します。
- ・首都圏に加え、仙台圏や関西圏など、新たなマーケットでの県産酒の販路拡大に取り組めます。

(清酒出荷額 H26 : 169億円 → H32 : 200億円)

○秋田の「食」の輸出を拡大します！

- ・欧米でのブランディングを戦略的に展開し、アジアのマーケットにおける秋田の「食」のプレゼンスを高めます。
- ・産金官（商社・団体、銀行、行政）によるコンソーシアムの活性化を図るとともに、

海外に拠点を持つ事業者との連携強化による日本酒や食品、伝統工芸品等の輸出を拡大します。

- ・輸出日本一奪還を目指す「米」をはじめ、米の加工品や、「秋田紅あかり」「秋泉」等の県オリジナル果樹、「秋田牛」「比内地鶏」等について、ターゲットを定めた輸出を促進します。

○秋田のうまいものを集めた一大イベントで地域に賑わいをもたらします！

- ・うどんエキスポ、肉博、かやき祭りなど、地域の食材や文化を生かしたイベント等の取組を応援します。
- ・各地域で開催されている秋田の「食」を一堂に集めた販売会や商談会機能を併せ持つ“あきたのうまいもの”イベントの開催を支援します。
- ・道の駅対抗による「あきた米どんぶり大会（“こまち”や“つぶぞろい”の上に地域特産をon）」や「あきたの食べ歩きグルメ大会（おにぎり、みそたんぼ、秋田牛、冷やしトマト）」の開催を支援します。

《将来に向かって》

○将来の交流人口拡大のための芽出しに取り組みます！

- ・県外からの交流人口の拡大や県内流動の促進に向けた“未来志向の取組”を研究・検討することを目的に、広く市町村や関係団体、利用者等による「協議の場」を設置し、あるべき姿や課題の抽出、解決手法などについて議論し、地域の活性化を目指します。

〔議論テーマの例示〕

- ・シニア層をターゲットとした滞在型観光の推進について
- ・山形県、青森県との県際交流促進のための縦軸観光ルートの開発について
- ・スポーツゾーン等の整備について
- ・秋田市中心市街地活性化に向けた交通体系の整備について
- ・秋田県内における自動運転車両の活用の可能性について など

8 文化の振興とスポーツ王国の実現

本県の誇る多彩な伝統芸能の継承に加え、新たな芸能・文化の価値創造を促すとともに、2020年東京五輪を見据えたジュニア期からトップレベルまでの一貫指導体制による選手強化や海外選手の合宿誘致のほか、サッカースタジアム等の整備に向けた協議を進めるなど、文化・スポーツ活動による地域活力の向上や交流人口の拡大を図ります。

【これまでの主な実績】

- ・「第29回国民文化祭・あきた2014」を開催 来場者数延べ103万人
- ・ユネスコの無形文化遺産に県内3地域の行事が登録
- ・田沢湖スキー場を会場にFISワールドカップモーグル大会を3年連続で開催
- ・ノーザンハピネットやブラウブリッツなど県内プロスポーツの快進撃
- ・「日本スポーツマスターズ2016秋田大会」を開催 国内外から7,500人参加
- ・第72回冬季国体スキー競技会において本県初となる天皇杯・皇后杯の同時獲得

4年間で実行する政策

《文化力の向上》

○県・市連携文化施設の整備を着実に進めます！

- ・県と秋田市が連携して新たに設置する「県・市連携文化施設」の整備を推進し、平成33年度の完成を目指します。
- ・文化施設の建設期間中においても、県内市町村施設等を利用するための調整を実施するほか、利用者の利便性を確保するための支援策を講じます。
- ・施設利用に向けた演劇・演奏会等の文化事業計画を企画・立案するなど、ハード・ソフト両面の取組を推進します。

○「新・秋田の行事」等の文化行事を応援します！

- ・全国最多となる17件の国指定重要無形民俗文化財を有する本県の伝統芸能・行事を次世代にしっかりと継承するとともに、地域の魅力を高める大切な観光資源として交流人口の拡大に結びつけます。

○芸術文化団体の取組を支援します！

- ・芸術文化振興基金を活用し、伝統芸能・行事の発表の機会を確保するとともに、アートや音楽による特色ある地域づくりを行う若者の創造的な活動をサポートする芸術文化団体の取組を支援します。

○秋田の文化力を高め、文化の力で地域を元気にします！

- ・多くの文化活動に参加して文化に触れ親しむ環境づくりや、地域の文化を守り育てていく取組を強化します。
- ・地域の文化資源に光を当て、住民の力で磨き上げることにより、新たな文化の価値を創造するとともに、国内外に発信して交流人口の拡大を図ります。

○東京五輪を契機とした本県文化の発信と人材の育成を図ります！

- ・国の2020年東京五輪の文化プログラムを契機として、秋田ならではの伝統文化・芸能等を積極的に国内外に発信するとともに、次代を担う人材の育成を図ります。

《スポーツ王国へ》

○東京五輪等のホストタウン登録や合宿誘致を進めます！

- ・2020年東京五輪の合宿誘致に係る県内受入態勢の強化に向けて、ホストタウン登録市町村のサポートや国外ナショナルチームへのプロモーションを行います。
- ・2019ラグビーワールドカップなどの国際スポーツ大会に係る国内外選手団の合宿誘致に積極的に取り組みます。

○モーグルや水上スキーなど国際大会や全国大会などの開催を促進します！

- ・「FISワールドカップモーグル秋田たざわ湖大会」を引き続き開催し、世界的に評価の高い田沢湖スキー場黒森ゲレンデを「モーグルの聖地」としてその価値を高め、国内はもとより、海外からのスキーヤーを中心としたインバウンド誘客を促進します。
- ・昨年開催した「世界学生水上スキー選手権大会」や「日本スポーツマスターズ秋田大会」のような国際的・全国的なスポーツ大会を誘致して、国際観光の振興や交流人口の拡大を図るとともに、本県スポーツ界のレベル向上などに結び付け、トップアスリートの県内定着を促進します。
- ・平成31年に全国冬季高校総体（スキーインターハイ）を開催します。

○スポーツの力で地域の元気を創出します！

- ・ライフステージに応じたスポーツ活動の充実と住民が主体的に参画できる地域のスポーツ環境の整備を推進します。
- ・県民の元気を創出する「秋田のトップスポーツチーム」が、ますます活躍できるよう県民や支援企業などと共に応援します。
- ・子どもたちを対象とした大相撲力士らによる稽古や記念相撲大会等を後援会組織などと連携して開催するなど、県出身力士に対する相撲ファンや地域の方々の応援の輪を拡大します。

○スポーツゾーン整備構想づくりに着手します！

- ・近い将来、老朽化による建て替えが必要となる県立体育館の今後の整備のあり方とともに、新アリーナ等各種スポーツ施設の整備・運営構想について検討を進めます。

○サッカースタジアムの整備実現をめざします！

- ・Jリーグライセンス（J2）を満たすサッカースタジアムの整備に向けて、市町村やスポーツ関係団体、経済団体等の関係者との協議の場を設け、整備方針を確立します。

○スポーツ立県あきたの底力を発揮して「東京五輪」に本県選手の出場を目指します！

- ・高校生・大学生や一般社会人等の国内トップレベルの選手の育成強化を図り、2020年東京五輪に、より多くの本県選手の出場を目指します。
- ・未来のスーパースターを育てるスポーツ少年団の活動を支援します。
- ・学校体育の一層の充実とともに、運動部の強化指定校に対して重点的に支援します。
(2020年東京五輪の本県選手の出場者数 10人以上)

○全国規模の一大イベントで人の流れを創出します！

- ・全国の若者などが集う「モーターカードリフト大会」を開催し、地域に賑わいをも

たらしめます。

- ・ねんりんピックや500歳野球、モーグルワールドカップ、さらには、あきた音楽大使の高橋優氏の野外フェスなど、県内外から大きな人の流れを創る全国規模の一大イベントへのサポートを行います。
- ・全国の専門高校の生徒等が様々な体験発表や研究発表、全国高等学校ロボット競技大会等を行う「第27回全国産業教育フェア秋田大会」を開催します。

9 交流を促す交通基盤の整備

活発な交流を促進する県土づくりや交通ネットワークの充実を図るなど、均衡の取れた社会基盤整備を推進するとともに、都市のコンパクト化や中心市街地の活性化を図ります。未来の秋田を創造し、県民の活力や交流人口の増大等を図るため、国家的なプロジェクトや長期スパンによる県のプロジェクトなど、秋田を元気にする新たな取組を積極的に推進します。

【これまでの主な実績】

- ・ 高速道路の供用率が90%に向上
 - 日本海沿岸東北自動車道 大館北IC～小坂JCT間 開通 (H25.11月)
 - 日本海沿岸東北自動車道 象潟IC～金浦IC間 開通 (H27.10月)
 - 日本海沿岸東北自動車道 鷹巣IC～二井田真中IC間 開通 (H28.10月)
 - 東北中央自動車道 院内道路 開通 (H28.11月)
- ・ クルーズ船の寄港数の増加 H20：4回 → H28：15回
- ・ コンテナ数の増加 H20：47,115TEU → H27：61,814TEU (TEU：20フィートコンテナ換算の個数)
- ・ 秋田港国際コンテナターミナル ガントリークレーン2号機の導入 (H27.9月)
- ・ 大曲通町地区の市街地再開発事業 H27年に事業完了

4年間で実行する政策

《新幹線の整備促進に向けた運動》

○奥羽・羽越新幹線の整備促進に向けた県民運動を展開します！

- ・ 産業や人材を地方に呼び込み、地方創生を実現するため、「奥羽新幹線、羽越新幹線」の整備計画路線への格上げを目指し、取組の母体となる官民が一体となった組織の下で、沿線県と力を合わせ、整備に向けた要望活動等を積極的に展開します。

《幹線道路網の整備》

○高速道路の全線開通と4車線化の実現に取り組みます！

- ・ 日本海沿岸東北自動車道「ニツ井白神IC～あきた北空港」間、「遊佐～象潟」間、東北中央自動車道「横堀道路」、「及位～上院内」間の早期完成に向けた取組を推進し、高速道路ネットワークの構築と全線開通に取り組みます。
- ・ 冬期間も含めた安全で円滑な走行環境を確保するため、秋田自動車道の暫定2車線区間の4車線化実現に向けた取組を推進します。
- ・ 横手北インター(仮称)など、高速道路のインターチェンジの整備を促進します。
(H29：日本海沿岸東北自動車道 鷹巣IC～あきた北空港IC(仮称)間開通)

○国道46、101、104、105号などの幹線道路網の整備を推進します！

- ・ 高速道路と一体となって機能する広域的な幹線道路網を形成する地域高規格道路について、「盛岡秋田道路(46号)」の整備促進に向けて取り組むとともに、候補路線の「大曲鷹巣道路(105号)」と「西津軽能代沿岸道路(101号)」の整備に向けて、地域と連携しながら取り組みます。加えて、鹿角市大湯と青森県田子町間の国道(104号)の整備に向けて取組を進めるとともに、国道108号や国道398号等の整備事業を推進し、県土の骨格を形成する幹線道路ネットワークの充実を図ります。
- ・ 地域活性化の拠点として観光や福祉、防災など様々な役割を担うことが期待される

「道の駅」について、機能強化と個性の創出に向けた取組を推進します。

○秋田港と秋田自動車道の連結を強化するアクセス道路の整備に取り組みます！

- ・秋田港の物流機能の強化を図るとともに、クルーズ船に対応した観光振興のため、秋田港と秋田自動車道の連結を強化するアクセス道路について、整備効果や土地利用等の整合を図りながら道路計画を検討して整備に取り組みます。

≪クルーズ船等に対応した港湾整備≫

○クルーズ船の受入環境の整備を図ります！

- ・環日本海クルーズ振興による地域活性化のため、官民一体となったクルーズ船の誘致活動を進めるとともに、受入組織の設立や旅客等のニーズに合わせた秋田港・船川港・能代港の環境整備など、ハード・ソフト両面から受入環境を整えます。

○港湾整備によるコンテナ等の物流を促進します！

- ・様々な機能を有する秋田の玄関口である秋田港をさらに強化するため、平成30年度に港湾計画を改訂し、港湾施設の整備を推進します。
- ・2018港湾計画策定に向けた長期構想づくりに取り組みます。
- ・秋田港のコンテナターミナル及びバルクターミナル機能を強化することにより、日本海側及び東北地方の物流の拠点となるよう取組を推進します。

(コンテナ数 H27：61,814TEU → H32：100,000TEU)

≪国内外を結ぶ航空路線の整備≫

○地域主体の低運賃航空会社「地域LCC」等の運航を促進します！

- ・秋田空港や大館能代空港から発着する定期航空路線の拡充や低運賃設定の航空会社(地域LCC)の運航を促進します。
- ・国内の空港から訪れるインバウンドをターゲットに、空路による秋田入りを誘導するなど、東北観光の拡大に結び付けます。

○航空路線の維持・拡充を図ります！

- ・秋田空港や大館能代空港へのチャーター便誘致を進めます。
- ・観光や経済の活性化に向け、その基盤である航空路線の維持・拡充等による広域交通の機能強化を図ります。

≪社会基盤の整備≫

○インフラの老朽化対策や効率的な運営・管理を推進します！

- ・老朽化が進行するインフラ施設に対し、トータルコストの縮減・平準化を図るため、メンテナンスサイクルの構築、各インフラ施設の長寿命化計画策定及び計画に基づく維持修繕の実施など、計画的な維持管理・更新等を推進します。
- ・生活排水処理サービスを効率的かつ持続的に住民へ提供するため、市町村や施設管理組合と連携し、処理施設等の機能合体や一体的な事業の運営・管理等による広域共同化を推進します。

○建設産業の生産性向上に取り組みます！

- ・建設現場へのICTの活用や施工時期の平準化に取り組み、建設産業の生産性向上を図ります。

IV 健康寿命日本一への挑戦 ～心と体の健康づくり県民運動大展開～

10 元気な長寿社会を実現する健康・医療の充実

県民一人ひとりの健康寿命を延ばし、「元気にとしよる～健康寿命日本一～」を目指す健康長寿社会を実現するとともに、医療や介護が必要となったときには、安心してサービスを受けられる体制を構築します。

【これまでの主な実績】

- ・脳血管疾患による人口10万人当たり年齢調整死亡率の低下 H24：43.4 → H27：38.0
- ・大曲厚生医療センターや湖東厚生病院等の整備促進
- ・H28年度に県内で初期臨床研修を開始した医師 過去最高の84人

4年間で実行する政策

《健康寿命日本一へ》

○元気で長生きできる「健康寿命日本一」運動を進めます！

- ・市町村や県医師会、県歯科医師会、秋田大学等との連携により、きめ細かな医療福祉施策を推進します。
- ・健康寿命日本一に向け、「歩いて健康県民運動」や「食生活改善運動」、「がん検診受診率向上運動」などを健康推進員等の活動と連携しながら展開し、県民が積極的に健康づくりへチャレンジする機運を盛り上げます。
- ・県民の運動を促す歩行空間の創出に向け、市町村や関係団体と連携して、県民が歩きやすい環境整備に取り組みます。
- ・歯と口腔の健康づくりに向け、児童等へのフッ化物洗口の取組や、高齢者への口腔ケア研修会の開催、県民の良い歯の表彰などを推進し、健康な歯を大切に守り続ける「8020運動」を展開します。
- ・県民総参加による全国健康福祉祭（ねんりんピック）を平成29年9月に開催します。
(一人一日当たりの平均歩数 H24：6,377歩 → H32：7,400歩)

○生活習慣病予防等による健康づくりや受動喫煙対策に取り組みます！

- ・健康寿命の更なる延伸と元気高齢先進県に向け、地域の健康づくり人材や企業等との連携による生活習慣病等予防対策を推進します。
- ・がんを含めた生活習慣病の一次予防から二次予防を県民運動として一体的に推進するため、その推進母体として「がん予防・健康づくり推進協議会」を設立します。
- ・地域住民に対する健康づくりの取組の支援や働きかけを行う人材の育成に向け、研修会やタウンミーティングなどを展開するとともに、健康推進員などの活動を支援します。
- ・受動喫煙防止に関する法整備の状況を踏まえるとともに、2020年東京五輪を契機として、公共の場等における受動喫煙対策を強化します。
(喫煙率 男性 H24：33.9% → H32：24.3% 女性 H24：11.0% → H32：6.6%)

《医療提供体制の充実》

○人口減少・高齢化に対応した地域包括ケアシステムを進めます！

- ・ 住み慣れた地域で安心して生活していくための地域包括ケアシステムの確保に不可欠な在宅医療提供体制を全県に構築します。
- ・ 医療資源が不足している過疎地域において、医療施設にグループホームや有料老人ホームなどを併設し、医療、介護、住まい、生活支援等を一体的に提供できる体制づくりに向けて、市町村と協働で取り組みます。

○医師や看護師など医療を支える人材の確保を図ります！

- ・ 秋田大学、病院、県医師会と連携し、地域医療を支える医師確保を一層進めるほか、看護協会と連携したナースセンターの機能強化や、看護師の再就職・職場復帰を進め、医療提供体制の充実を図ります。

(看護職従事者数 H26 : 14,707人 → H32 : 16,000人)

○医療ニーズに対応した医師を養成する環境整備を進めます！

- ・ 高齢化により医療ニーズが高まっている循環器疾患、呼吸器疾患への対応強化を図るため、秋田大学医学部に対して、若手医師を育成する体制を強化していくように働きかけ、それぞれ独立した専門的な講座の設置を促進します。

○医療提供体制の充実強化と患者の社会復帰を図ります！

- ・ 地域の実情に応じて、良質で適切な医療を効率的・安定的に提供していくため、地域医療構想に基づき、次期医療計画を策定して医療提供体制の整備を図ります。
- ・ がん拠点病院等の空白二次医療圏の解消に向け、北秋田市民病院の体制整備を促進します。
- ・ がん検診受診率向上対策を推進するほか、がん治療と就労・社会参加の両立を促すため、医療用ウィッグ（かつら）等補正具を購入するがん患者を支援します。
- ・ 脳卒中・循環器疾患対策の法制化に呼応しつつ、脳・循環器疾患の包括的な医療推進に向け、「脳血管研究センター」の増築等に取り組めます。
- ・ 脳卒中、急性心筋梗塞などの緊急性の高い疾病や重症外傷等に対応できる高度で専門的な医療を実施する県北地域の医療機関として、大館市立総合病院への地域救命救急センターの整備を目指します。

1 1 誰もが住み慣れた地域で暮らせる福祉の充実

障害者も、高齢者が認知症になった場合も、誰もが住み慣れた地域で、安全・安心に暮らすことのできる社会の実現とともに、自殺の未然防止やひきこもりの人の社会参加を図ります。

【これまでの主な実績】

- ・ 認知症サポート医の養成数の増加 H24：23人 → H27：58人
- ・ 認知症疾患医療センターの設置 H28までに6か所
- ・ 特別養護老人ホームの定員の増加 H24：6,343人 → H28：7,285人
- ・ 障害者グループホームの定員の増加 H24：983人 → H28：1,174人
- ・ 障害者就労・生活支援センターの設置の増加 H24：5か所 → H28：8か所
- ・ 自殺による人口10万人当たり死亡率の低下 H24：27.6 → H27：25.7

4年間で実行する政策

《福祉の充実》

○「認知症」の人や家族を地域で支える体制づくりを推進します！

- ・ 認知症になっても安全・安心に暮らせる地域づくりを目指し、認知症サポート医の養成や認知症サポーターの活動促進など、総合的な認知症施策を推進します。
- ・ 現在、「認知症疾患医療センター」が未設置である能代・山本、由利本荘・にかほ、横手の3医療圏に設置し、全県の整備を完成させます。

○特別養護老人ホーム等介護基盤の強化を支援します！

- ・ 介護を必要とする高齢者が、本人の状況に応じた施設に入所できるよう特別養護老人ホーム等の新增設を支援します。
- ・ 介護人材マネージャーによるマッチング機能の強化などにより、介護従事者の育成・確保や処遇改善等に向けた取組を支援します。
- ・ 働きやすい環境づくりに向けた介護サービス事業所の「認証評価制度」の運用を開始します。

○障害者等を地域で支える体制づくりを推進します！

- ・ 障害の有無にかかわらず、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目指し、「こころのバリアフリー」の促進に向けた啓発に取り組みます。
- ・ 内部障害や難病のある人、義足や人工関節を使用している人など、外見からは援助や配慮を必要としていることが分からない人が身につける「ヘルプマーク」の活用を推進し、障害への理解と障害者が社会参加しやすい環境づくりを促進します。

○地域で見守る自殺予防対策に取り組みます！

- ・ メンタルヘルスサポーターやゲートキーパーをさらに養成し、家庭・職場・地域における気づきや見守りの促進等の支援体制の強化を図ります。
- ・ 市町村、大学、福祉、医療など関係機関、民間団体と協働で総合的な自殺予防対策を推進します。

(自殺者数 H27：262人 → H32：200人以下)

○相談体制の充実を図るなど、ひきこもり対策を強化します！

- ・ひきこもり相談支援センターを中心に、本人や親に対し、社会とのつながりを支援するための相談体制の充実と社会参加の機会を提供します。

V 世界に貢献する人材の育成 ～人口減少時代、未来を担う人材こそ最優先～

1 2 未来を切り開く児童・生徒の育成

ふるさとを愛する豊かな心を育み、自らの未来を切り開く人材を育成します。
さらに、グローバル化が進む中、全国トップレベルの英語力や積極的にコミュニケーションを図る行動力を育成します。

【これまでの主な実績】

- ・「全国学力・学習状況調査」でH19年度の開始以来、全国トップレベルを維持
- ・小・中学校での少人数学習 全学年で実施
- ・中学3年生の英検3級以上の取得率 全国1位 (H27: 39.7%)

4年間で実行する政策

《小・中学校の教育》

- 「全国トップレベルの学力」の維持・向上に向けた少人数学習・探究型教育を推進します！
 - ・少人数学習の推進など、子ども一人ひとりの状況に応じたきめ細かな指導ができる環境の充実を図るとともに、理数系の探究型授業を充実・進化させ、理数分野に一層興味・関心を持つ児童生徒を育成します。
 - ・教員育成の体系を見直し、特に若手教員に対する研修の充実を図ります。
- 地域で学ぶ体験型授業を推進します！
 - ・子どもたちが新たな地域ビジネスを探究し、地域企業に提案・発表する「地域の仕事づくりを行う起業体験プロジェクト」を創設するなど、「地域に根ざしたキャリア教育」を充実します。
 - ・学力全国トップレベルの秋田での短期・長期留学を推進するほか、県内の小・中学生による農作業などの職場体験を推進します。
- 「英語力日本一」の充実を図り、グローバル社会で活躍できる人材を育成します！
 - ・中学3年生の英検3級以上取得率全国一を維持しつつ、英語コミュニケーション能力の更なる向上を図ります。
 - ・中学生と国際教養大学留学生との英会話コミュニケーション講座を実施するとともに、各地域の要請に応じて、留学生による出前講座や地域行事などへの参加を支援します。
 - ・教育旅行で来秋するタイ王国の中学生と本県中学生との交流や、本県において模擬授業を行うタイの教員と本県小・中学生とのふれあいを通じて、異文化への理解や英語コミュニケーション能力、グローバル感覚の養成を図ります。
(英検3級以上取得率 H27: 39.7% → H32: 42.0%)
- いじめの早期対応・早期解消を図ります！
 - ・秋田県いじめ防止対策推進条例の下、学校、家庭、地域、その他関係者が連携して、いじめの未然防止と早期発見に努め、いじめの根絶に取り組めます。
 - ・児童生徒がインターネットによるいじめに巻き込まれないよう、ネットを監視する関係機関等の取組を強化するとともに、学校での指導の徹底を図ります。

- ・子どもの貧困や、貧困が原因の不登校など、複雑化している問題に対応していくため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置を拡充します。

○生活困窮世帯に対する子どもの学習支援や家計相談支援等を推進します！

- ・生活困窮世帯の子どもに対し、高校進学のための基礎学力及び学習習慣を身に付けるため、出前授業などの学習支援を行います。
- ・ひとり親等生活困窮者を対象に、子どもの教育資金等の計画的な準備方法など、家計に関する悩みに対し、専門家による家計相談を進めます。

13 郷土秋田を支えグローバル社会で活躍できる人材の育成

本県産業の振興と地域の発展に貢献し、グローバル社会で活躍できる気概に満ちた人材の育成を図ります。

高等学校等の校舎改築や学校再編とともに、県内大学の充実強化を図ります。

【これまでの主な実績】

- ・ 国公立大学への進学希望達成率の向上 H24 : 49.1% → H27 : 53.8%
- ・ 秋田地区中高一貫教育校や統合校の整備
秋田南高校中等部、能代松陽高校・角館高校・大館桂桜高校
- ・ 課題解決支援コーナーを設置する図書館の増加 H24 : 27.1% → H27 : 75.7%

4年間で実行する政策

《高等学校の教育》

○全国初の高校における少人数学習に取り組みます！

- ・ 新しい学習指導要領の趣旨に沿った授業を推進するため、全国初の公立高校における少人数学習（35人程度学級）に取り組みます。
- ・ 高校生を対象とした県独自の学力・学習状況調査の活用等により、個々の生徒の課題の解決につながるように、授業の更なる改善を図ります。

○高等学校等の校舎整備を推進します！

- ・ 「秋田県高等学校総合整備計画」及び「秋田県特別支援教育総合整備計画」に基づき、秋田工業、大曲農業、能代地区統合校、比内支援学校の改築等を進めます。
- ・ 今後、横手、大曲、金足農業などの県立学校の校舎の改築等の計画的な整備を推進するとともに、学校再編等に取り組みます。

○「英語力日本一」の充実を図り、グローバル社会で活躍できる人材を育成します！

- ・ 高校生の英語学習の意欲と英語力の向上に向け、国や県の英語関係事業に取り組む高校の2年生を対象に英検の受験を促進するほか、中高一貫教育校に「グローバルSTUDYコース」を設置するとともに、国際教養大学との連携を強化します。
- ・ スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校を中心としたタイ王国の高校等との訪問交流により、主体的・協働的な学びの場を充実します。
（タイ王国との交流の拡大 タイ王国高校生の教育旅行の受入等）

《大学教育》

○新たな学部創設構想づくりに取り組みます！

- ・ 賑わいのある地域づくりや地域活性化に向けてコーディネートできる若い担い手・人材の確保・育成を目指し、県内外の大学による地域計画・地域政策系の「新たな学部」を県内に創設するための構想づくりに取り組みます。

○県内大学の充実強化への取組をサポートします！

- ・ 学部再編や改革に取り組んでいる県立大学、国際教養大学の更なる充実強化に向けて必要な支援を行うとともに、地域課題の解決に向けて秋田大学等との連携を強化します。

《生涯教育》

○良好で魅力ある学びの場づくりを推進します！

- ・地域住民と学校が一体となって教育体制を構築する「コミュニティ・スクール」の導入を促進します。
- ・「第2次秋田県読書活動推進基本計画」に基づき、家庭や学校・職場・地域において、読書がしっかりと根付くよう読書活動を推進するとともに、県立図書館における資料の一層の充実を図ります。
- ・市町村、NPO法人、大学等の協力の下、高校卒業後も老若男女が集える「イングリッシュ・カフェ」を全県各地に開設するなど、息の長い取組による「県民総イングリッシュスピーカー」を目指します。

参考

あきたづくりの「プロジェクト5」の項目一覧

あきたづくりの「プロジェクト5」

I ストップ・ザ・人口減少

～若者や女性の秋田定着・回帰をめざして～

1 「秋田定着・秋田回帰」の推進

《サポート体制・組織体制の強化》

○少子化対策や移住・定住を推進する新たな所管部「あきた未来創造部」を設置します！

《若者や女性が定着できる職場づくり》

○成長産業の振興により魅力あふれる職場づくりを進めます！

○女性が生き生きと働く職場づくりを促進します！

○「福祉・医療」の人材を確保します！

○「新規就農者」や「林業人材」の確保・育成を図ります！

○「建設人材」の確保・育成を図ります！

○待遇改善・福利厚生が充実した職場づくりを促進します！

《高卒者の県内定着》

○県内企業への就職を促進し県内定着を図ります！

○地域に求められる産業人材の育成により高卒者の県内定着を図ります！

○就職数年目での「離職者」の発生を抑制し県内定着を図ります！

《大卒者の秋田定着・秋田回帰》

○学生への奨学金制度や返還助成制度による「秋田定着・秋田回帰」を進めます！

○「COC+構想」の促進など、県内の大学生の県内定着を進めます！

○県出身の県外大学生等への県内就職「秋田回帰」を進めます！

《移住・定住の推進》

○「あきたに住みたい・暮らしたい」をワンストップで応援します！

○移住拡大と地域活性化に貢献する「ドチャベン」を応援します！

○県と市町村との連携・協働プロジェクトによる「移住・定住」を進めます！

○県外からの「秋田の教育体験」（短期・長期の教育留学）を推進します！

○CCRC等による移住・定住のための新たな居住環境づくりを進めます！

○「秋田版生涯活躍のまち」づくりを進めます！

2 全国トップレベルの結婚・出産・子育てサポート

《脱少子化県民運動の展開》

○官民一体となった「脱・少子化県民運動」を展開します！

《結婚・出産・子育て支援》

○結婚へのサポートの充実・強化を図ります！

○妊娠・出産へのサポートの充実・強化を図ります！

○子育て世帯の「医療・保育・住宅・教育」をサポートします！

○待機児童の解消や学習機会の場づくりを進めます！

《女性の活躍推進》

○働く女性の職場環境づくりを推進します！

○仕事と子育てを両立できる環境づくりを推進します！

○快適な職場環境づくりを促進します！

○ワークライフバランス等により女性の活躍を推進します！

3 安全・安心で豊かに暮らす生活基盤とまちづくり

《賑わいのあるまちづくり》

○中心市街地のコンパクト化と域内交通のあり方を検討します！

○秋田版小さな拠点づくりを推進します！

○CCRC等による移住・定住のための新たな居住環境づくりを進めます！

○若者の活躍を推進します！

○全国規模の一大イベントで人の流れを創出します！

○特徴ある地域づくりを応援します！

《生活環境の整備》

○「動物にやさしい秋田（動物愛護センターの整備）」の取組を推進します！

- 県民総参加による環境保全に取り組みます！
- 県土の保全と災害に強い地域づくりを進めます！
- 安全・安心な暮らしを守る居住環境づくりを進めます！
- 地域公共交通の利用促進と交通弱者のための新たな移動サービス等を検討します！
- 防犯や交通事故防止活動を推進します！
- 有害鳥獣による被害防止を強化します！

Ⅱ 雇用を生み出す成長産業の振興 ～産業集積拠点化と日本一づくりを～

4 成長産業の加速的発展による産業構造の転換

《成長産業の振興》

- 「航空機、自動車、医療・福祉、ICT、新エネルギー」など成長産業の振興を図ります！
- 成長産業の企業誘致や集積拠点化を図ります！
- ものづくり産業のイノベーションを促進します！
- 首都圏大学研究機関等との連携強化と「研究室」の誘致を推進します！
- 企業と学校のマッチングで求められる産業人材を育成します！
- 国際コンテナの利便性向上を通じた貿易の促進を図ります！

《中小企業の振興》

- 中小企業に対する総合的な支援を行います！
- ものづくり産業の新たな成長を促します！
- 企業の経営基盤の強化と事業承継をサポートします！

5 全国一の風力発電などエネルギー供給拠点の形成

《エネルギーの安定供給と関連産業の集積》

- 全国トップの風力発電の更なる導入拡大を推進します！
- 風力発電メンテナンス等への県内企業の参入を促進します！
- 地熱やバイオマスなどの再生可能エネルギー発電を促進します！
- 水力発電の導入を推進します！
- エネルギーの安定供給やベストミックス実現に貢献します！

《エネルギーの多様な利活用の促進》

- 地域が連携したエネルギー供給・利用体制の構築を図ります！

6 複合型生産構造への転換による攻めの農林水産業の振興

《米依存からの脱却》

- 園芸メガ団地等による園芸拠点の整備を促進します！
- 日本一の「枝豆」と次に続く「しいたけ」の生産振興を図ります！
- 秋田県オリジナル品種の果樹・花きの生産振興を図ります！
- 国内外に打って出る「秋田牛」等の畜産の生産拠点整備を進めます！
- 農産物の高付加価値化と流通販売対策を強化します！
- 効率的な生産拠点・園芸メガ団地等の基盤となる「ほ場整備」を推進します！

《秋田米の戦略》

- 平成30年以降を見据えた戦略的な「秋田米」の生産・販売を展開します！
- 実需と結び付いた生産体制の強化に取り組みます！
- 市場を制する極良食味米の「新品種デビュー」を目指します！

《多様な担い手育成》

- 本県農業を担う「多様な担い手」の確保・育成を図ります！
- 若年から中壮年層までの「新規就農者」の確保・育成を図ります！
- あきたで活躍する女性の活動を支援します！

《農業・農村の活性化》

- 地域資源を生かした中山間地域対策を展開します！
- 農業団体の統合促進と商工団体との連携強化を図ります！

《林業・木材産業の振興》

- 「ウッドファーストあきた」の更なる推進を図ります！
- 間伐や路網整備等を推進します！
- 全国最大級の木材総合加工産地として体制強化を図ります！

- 林業大学の充実強化による次代を担う「林業人材」を育成します！
- 《水産業の振興》
 - 秋田の海・川資源を生かした「水産業の振興」とビジネス展開を図ります！
 - 水産振興センターの栽培漁業施設の整備を推進します！
 - 「第39回全国豊かな海づくり大会」等の開催を契機に水産業の活力向上を図ります！
 - つりなどの遊漁環境の整備を図ります！
 - 漁業就業者の確保・育成を図ります！

Ⅲ 未来への交流創出と交通基盤整備 ～インバウンドの増大と若者が振り向くふるさとづくり～

7 秋田の魅力を生かした観光と交通の充実

- 《観光客等の受入環境整備》
 - 交流を呼び込む「宿泊施設」等の環境整備を進めます！
 - 魅力ある「宿泊施設」の建設投資を促進します！
 - 観光客・ビジネス客等の受入環境・二次アクセスの整備を進めます！
 - 東北周遊豪華列車による秋田の旅に誘います！
 - ローカル交通を強化し、地域に賑わいをもたらします！
- 《観光資源のフル活用》
 - 秋田犬の里など、秋田ならではの観光資源・食の提供で誘客を図ります！
 - 伝統文化遺産など秋田の魅力を世界に発信して観光に生かします！
 - 豊かな自然公園等を生かした観光誘客を図ります！
 - 賑わいをもたらす「連続テレビドラマ」を誘致します！
- 《インバウンドの拡大》
 - 東アジアを主体としたインバウンドを拡大します！
 - インバウンドのための「外国語対応」の充実を図ります！
 - クルーズ船や航空機チャーター便の誘致を進めます！
- 《秋田のうまいものの売り込み》
 - 「秋田のうまいもの・秋田ブランド」を広くPRし、国内外への販売を強化します！
 - 秋田の地酒・日本酒の高品質化とプレミアム販売を促進します！
 - 秋田の「食」の輸出を拡大します！
 - 秋田のうまいものを集めた一大イベントで地域に賑わいをもたらします！
- 《将来に向かって》
 - 将来の交流人口拡大のための芽出しに取り組めます！

8 文化の振興とスポーツ王国の実現

- 《文化力の向上》
 - 県・市連携文化施設の整備を着実に進めます！
 - 「新・秋田の行事」等の文化行事を応援します！
 - 芸術文化団体の取組を支援します！
 - 秋田の文化力を高め、文化の力で地域を元気にします！
 - 東京五輪を契機とした本県文化の発信と人材の育成を図ります！
- 《スポーツ王国へ》
 - 東京五輪等のホストタウン登録や合宿誘致を進めます！
 - モーグルや水上スキーなど国際大会や全国大会などの開催を促進します！
 - スポーツの力で地域の元気を創出します！
 - スポーツゾーン整備構想づくりに着手します！
 - サッカースタジアムの整備実現をめざします！
 - スポーツ立県あきたの底力を発揮して「東京五輪」に本県選手の出場を目指します！
 - 全国規模の一大イベントで人の流れを創出します！

9 交流を促す交通基盤の整備

- 《新幹線の整備促進に向けた運動》
 - 奥羽・羽越新幹線の整備促進に向けた県民運動を展開します！
- 《幹線道路網の整備》
 - 高速道路の全線開通と4車線化の実現に取り組めます！

- 国道46、101、104、105号などの幹線道路網の整備を推進します！
- 秋田港と秋田自動車道の連結を強化するアクセス道路の整備に取り組みます！
- 《クルーズ船等に対応した港湾整備》
 - クルーズ船の受入環境の整備を図ります！
 - 港湾整備によるコンテナ等の物流を促進します！
- 《国内外を結ぶ航空路線の整備》
 - 地域主体の低運賃航空会社「地域LCC」等の運航を促進します！
 - 航空路線の維持・拡充を図ります！
- 《社会基盤の整備》
 - インフラの老朽化対策や効率的な運営・管理を推進します！
 - 建設産業の生産性向上に取り組みます！

IV 健康寿命日本一への挑戦 ～心と体の健康づくり県民運動大展開～

10 元気な長寿社会を実現する健康・医療の充実

《健康寿命日本一へ》

- 元気で長生きできる「健康寿命日本一」運動を進めます！
- 生活習慣病予防等による健康づくりや受動喫煙対策に取り組みます！

《医療提供体制の充実》

- 人口減少・高齢化に対応した地域包括ケアシステムを進めます！
- 医師や看護師など医療を支える人材の確保を図ります！
- 医療ニーズに対応した医師を養成する環境整備を進めます！
- 医療提供体制の充実強化と患者の社会復帰を図ります！

11 誰もが住み慣れた地域で暮らせる福祉の充実

《福祉の充実》

- 「認知症」の人や家族を地域で支える体制づくりを推進します！
- 特別養護老人ホーム等介護基盤の強化を支援します！
- 障害者等を地域で支える体制づくりを推進します！
- 地域で見守る自殺予防対策に取り組みます！
- 相談体制の充実を図るなど、ひきこもり対策を強化します！

V 世界に貢献する人材の育成 ～人口減少時代、未来を担う人材こそ最優先～

12 未来を切り開く児童・生徒の育成

《小・中学校の教育》

- 「全国トップレベルの学力」の維持・向上に向けた少人数学習・探究型教育を推進します！
- 地域で学ぶ体験型授業を推進します！
- 「英語力日本一」の充実を図り、グローバル社会で活躍できる人材を育成します！
- いじめの早期対応・早期解消を図ります！
- 生活困窮世帯に対する子どもの学習支援や家計相談支援等を推進します！

13 郷土秋田を支えグローバル社会で活躍できる人材の育成

《高等学校の教育》

- 全国初の高校における少人数学習に取り組みます！
- 高等学校等の校舎整備を推進します！
- 「英語力日本一」の充実を図り、グローバル社会で活躍できる人材を育成します！

《大学教育》

- 新たな学部創設構想づくりに取り組みます！
- 県内大学の充実強化への取組をサポートします！

《生涯教育》

- 良好で魅力ある学びの場づくりを推進します！